

恵那市
男女共同参画に関する市民意識調査

令和7年1月

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果（市民）.....	2
1	回答者属性.....	2
2	男女平等に関する意識について.....	8
3	家庭生活について.....	15
4	地域活動や社会参画について.....	23
5	就労・働き方について.....	25
6	DV（ドメスティック・バイオレンス）、ハラスメント等について.....	29
7	防災について.....	38
8	男女共同参画社会に関する施策について.....	40
9	自由回答.....	41
III	調査結果（事業所）.....	42
1	貴事業所の概要.....	42
2	女性の活躍推進について.....	45
3	貴事業所の育児や介護に関する制度について.....	47
4	「ワーク・ライフ・バランス」について.....	50
5	自由回答.....	52

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、現行の第2次男女共同参画プランの計画期間が令和7年度に終了することに伴い、本市における男女共同参画に関する意識と実態を把握し、次期プラン策定のための基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2 調査対象

市民：18歳以上70歳未満の市民の皆様の中から、2,000人を無作為抽出

事業所：市内事業所100社

3 調査期間

令和6年11月22日～令和6年12月11日

4 調査方法

市民：郵送による配布 WEB・郵送による回収

事業所：郵送による配布 WEB・郵送による回収

5 回収状況

種 類	配 布 数	有効回収数	有効回収率
市民	2,000通	780通	39.0%
事業所	100通	53通	53.0%

6 調査結果の表示方法

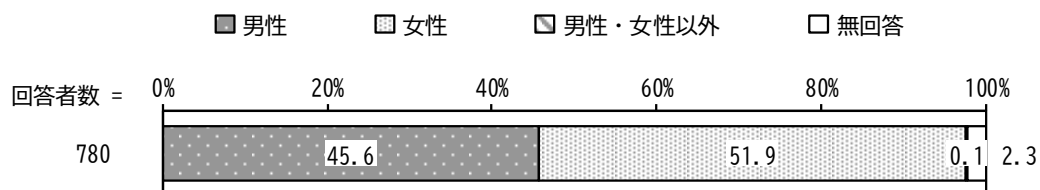
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ 調査結果（市民）

1 回答者属性

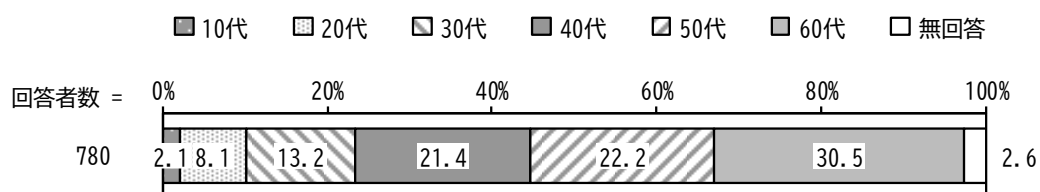
- ① あなたの性別をお聞かせください。（○は1つ）※ご自身が認識する性でお答えください。

「女性」の割合が51.9%と最も高く、次いで「男性」の割合が45.6%、「男性・女性以外」の割合が0.1%となっています。



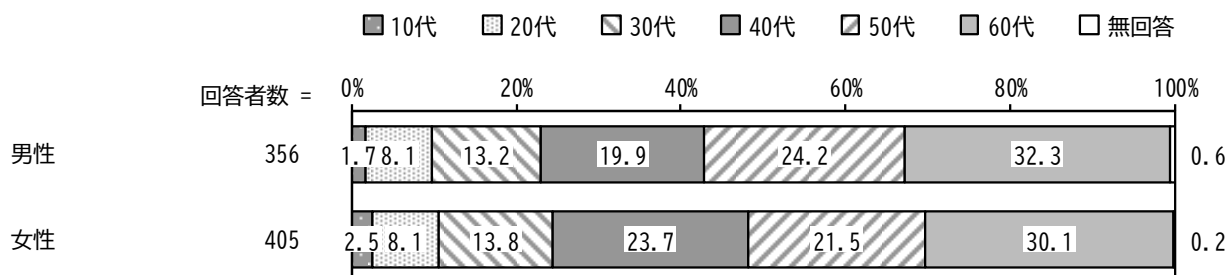
- ② あなたの年齢は次のどれにあたりますか。（○は1つ）※令和6年11月1日時点

「60代」の割合が30.5%と最も高く、次いで「50代」の割合が22.2%、「40代」の割合が21.4%となっています。



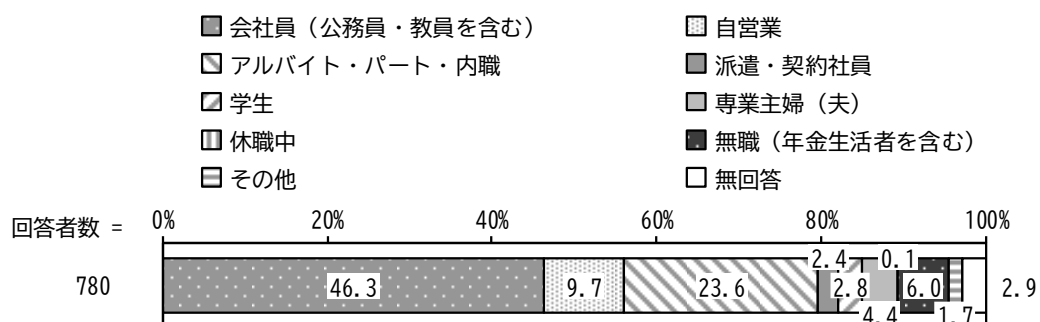
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



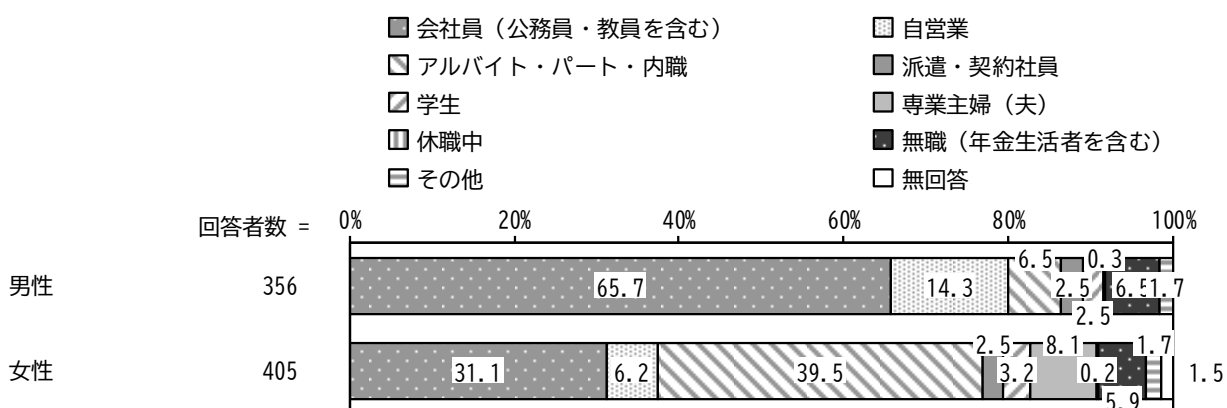
③ あなたは現在、主にどのようなお仕事をしていますか。(〇は1つ) ※出産休暇や育児休業中の方も、働いているものとお考えください。

「会社員（公務員・教員を含む）」の割合が46.3%と最も高く、次いで「アルバイト・パート・内職」の割合が23.6%、「自営業」の割合が9.7%となっています。



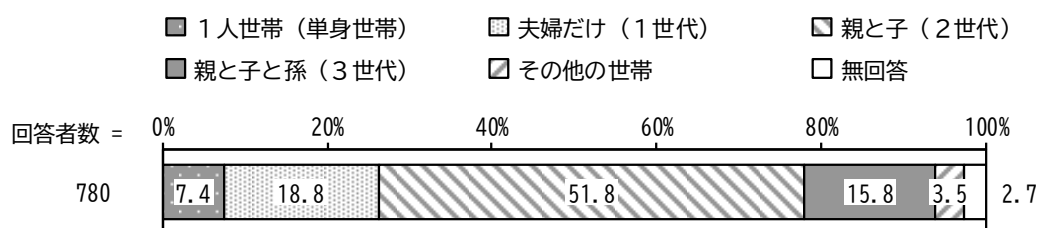
【性別】

性別にみると、男性で「会社員（公務員・教員を含む）」の割合が高くなっています。



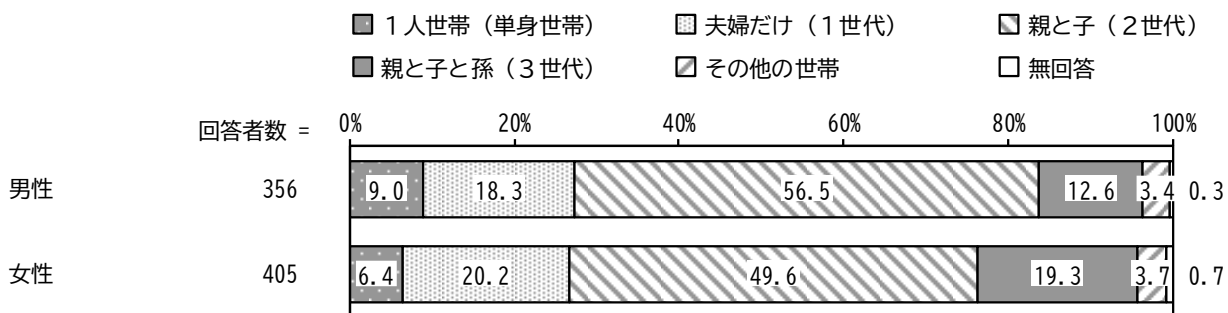
④ あなたの家族構成（同居している家族）は次のどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

「親と子（2世代）」の割合が51.8%と最も高く、次いで「夫婦だけ（1世代）」の割合が18.8%、「親と子と孫（3世代）」の割合が15.8%となっています。



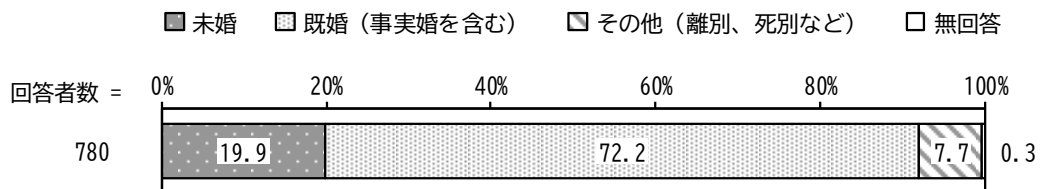
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



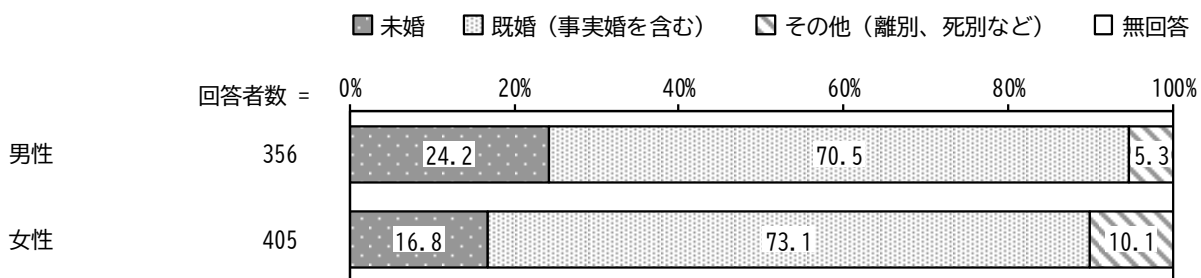
⑤ あなたは結婚されていますか。（○は1つ）

「既婚（事実婚を含む）」の割合が72.2%と最も高く、次いで「未婚」の割合が19.9%、「その他（離別、死別など）」の割合が7.7%となっています。



【性別】

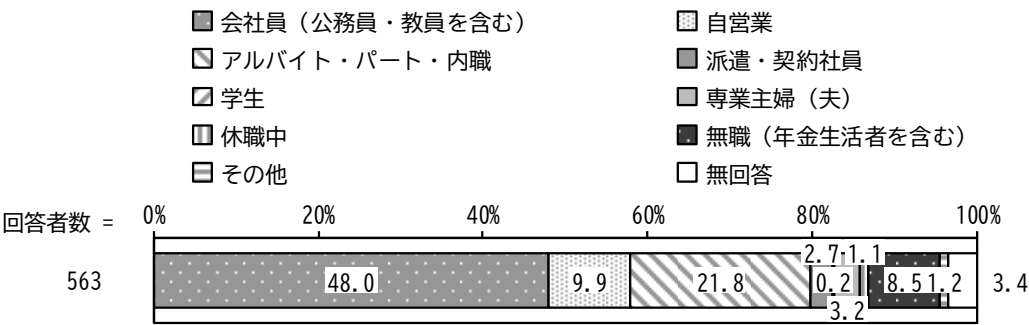
性別にみると、大きな差はみられません。



<⑤で「2. 既婚（事実婚を含む）」と答えた方にお伺いします>

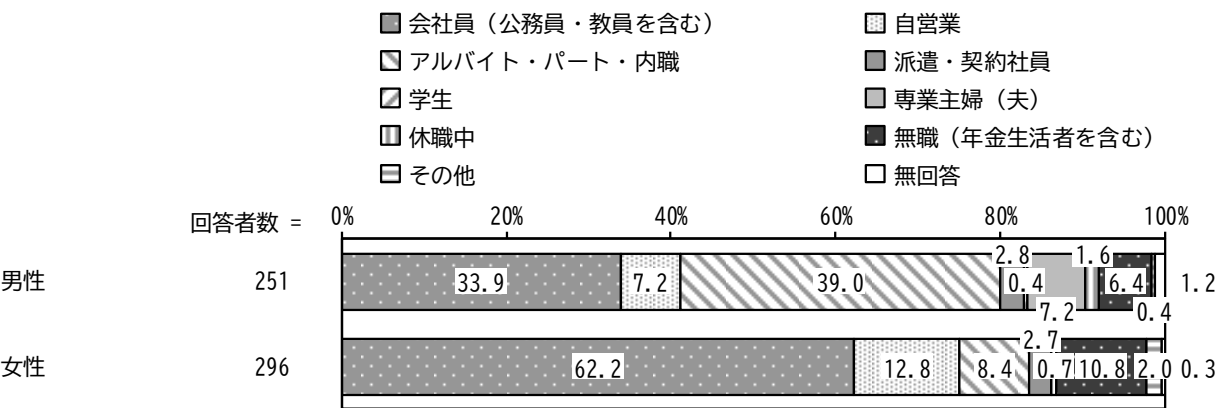
⑥ 配偶者・パートナーの方は現在、主にどのようなお仕事をしていますか。（○は1つ）※
出産休暇や育児休業中の方も、働いているものとお考えください。

「会社員（公務員・教員を含む）」の割合が48.0%と最も高く、次いで「アルバイト・パート・内職」の割合が21.8%、「自営業」の割合が9.9%となっています。



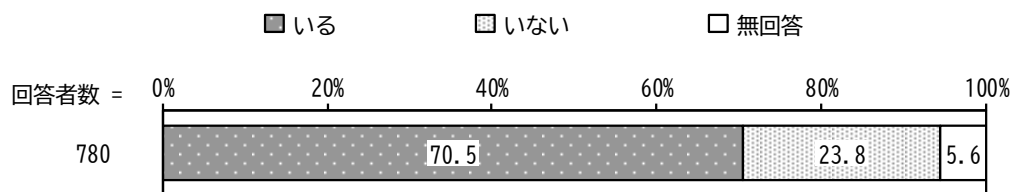
【性別】

性別にみると、男性で「アルバイト・パート・内職」の割合が高くなっています。



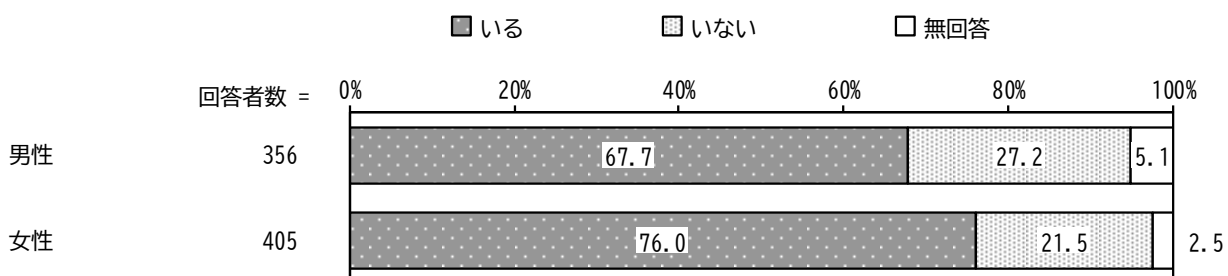
⑦ あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。また、お子さんがいる方は、何人ですか。
(○は1つ、数字を記入)

「いる」の割合が70.5%、「いない」の割合が23.8%となっています。



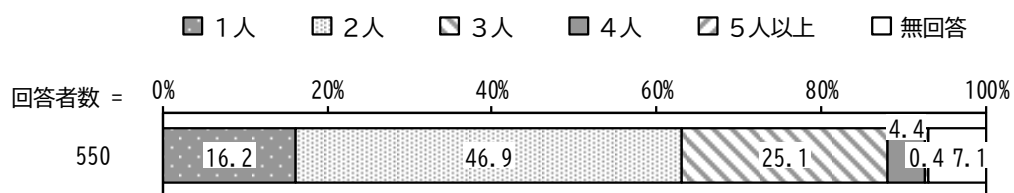
【性別】

性別にみると、女性で「いる」の割合が高くなっています。



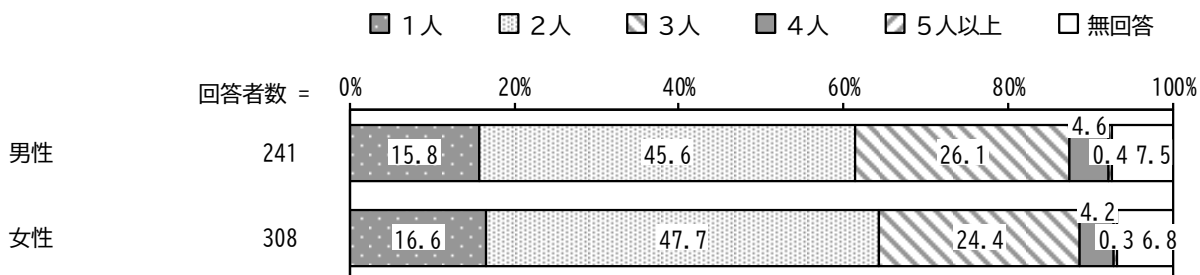
お子さんの人数

「2人」の割合が46.9%と最も高く、次いで「3人」の割合が25.1%、「1人」の割合が16.2%となっています。



【性別】

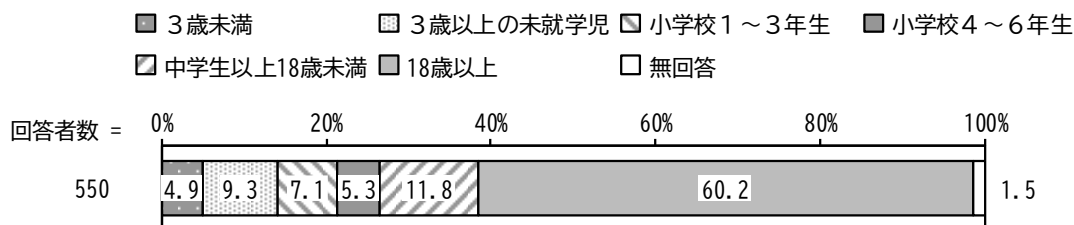
性別にみると、大きな差はみられません。



<⑦で「1. いる」と答えた方にお伺いします>

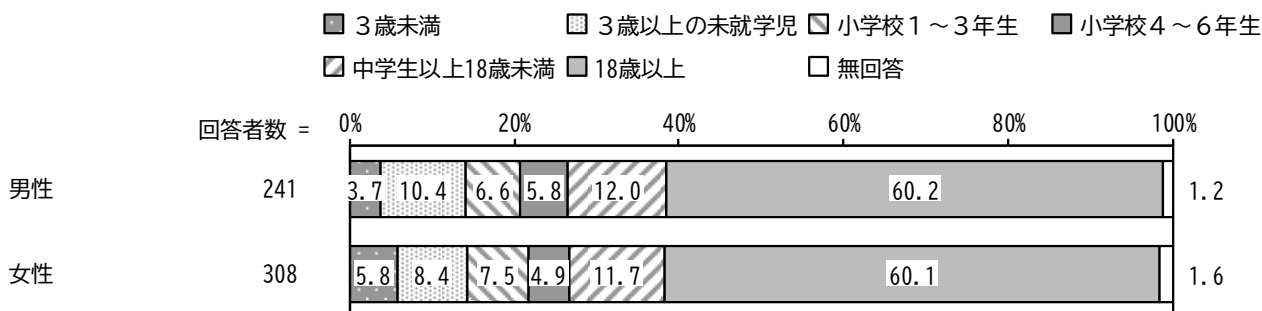
⑧ 一番下のお子さんについてお答えください。(○は1つ)

「18歳以上」の割合が60.2%と最も高く、次いで「中学生以上18歳未満」の割合が11.8%、「3歳以上の未就学児」の割合が9.3%となっています。



【性別】

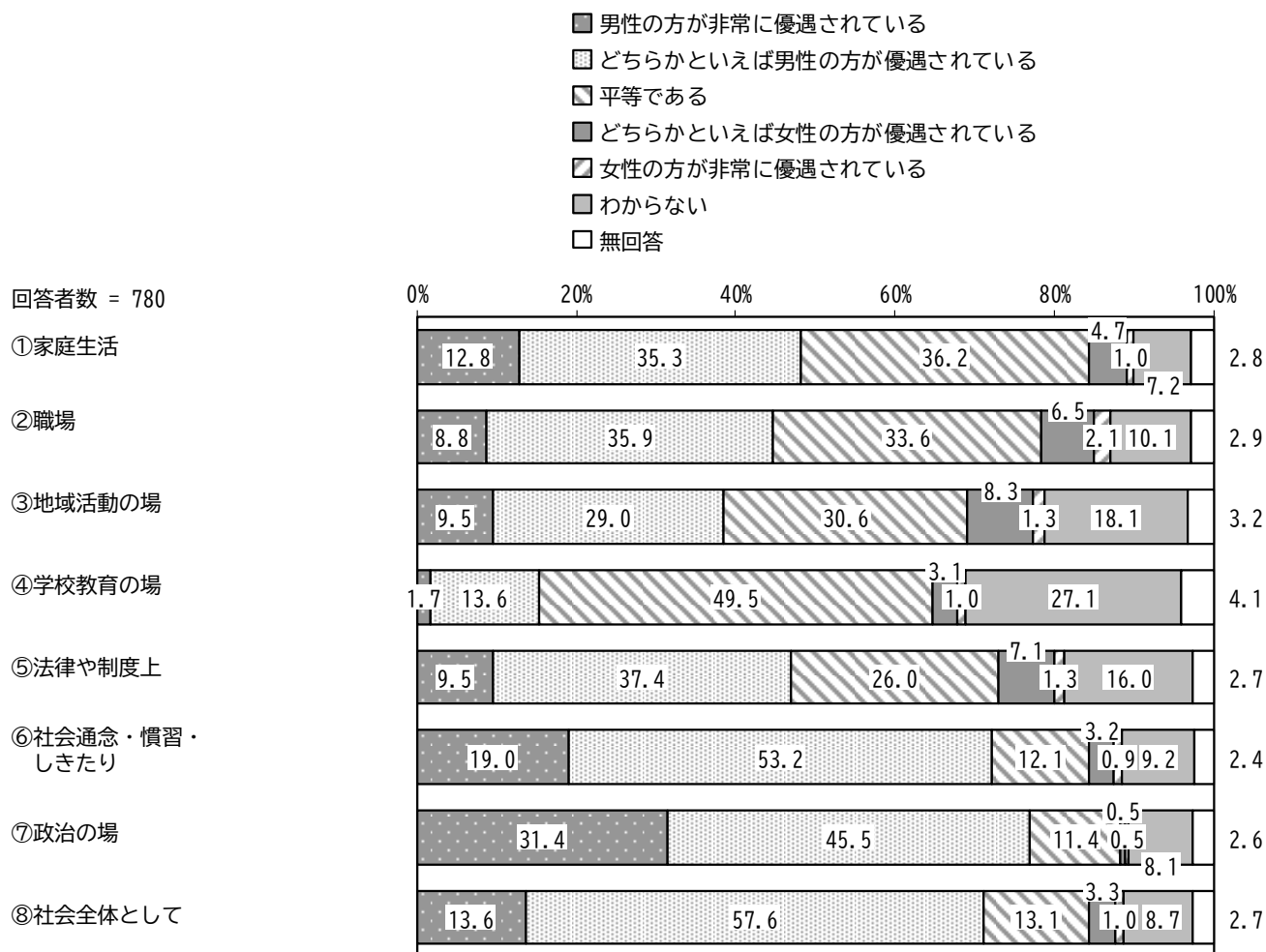
性別にみると、大きな差はみられません。



2 男女平等に関する意識について

問1－1. 次のような分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(①から⑧まで、○は各項目1つずつ)

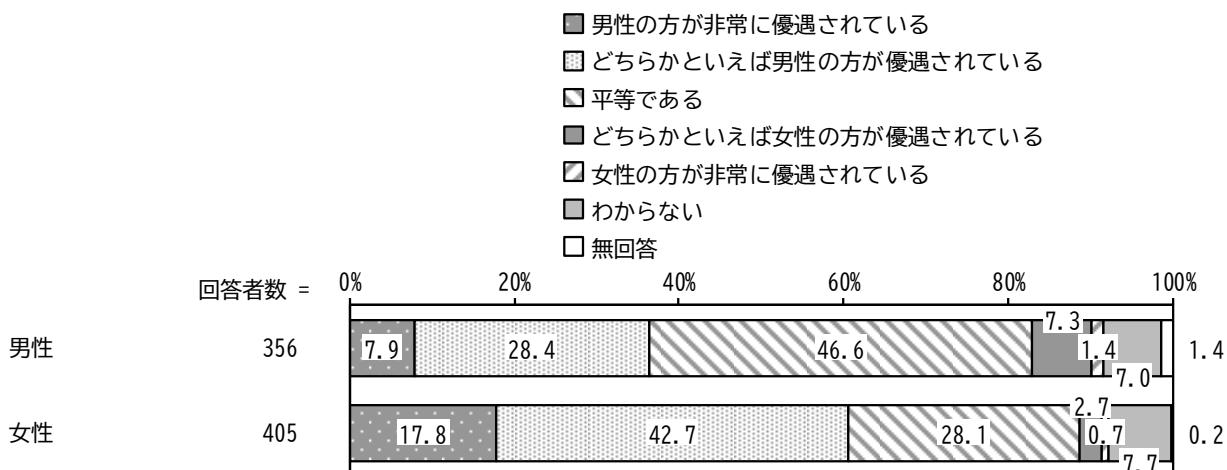
『⑦政治の場』で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が、『④学校教育の場』で「平等である」の割合が高くなっています。



① 家庭生活

【性別】

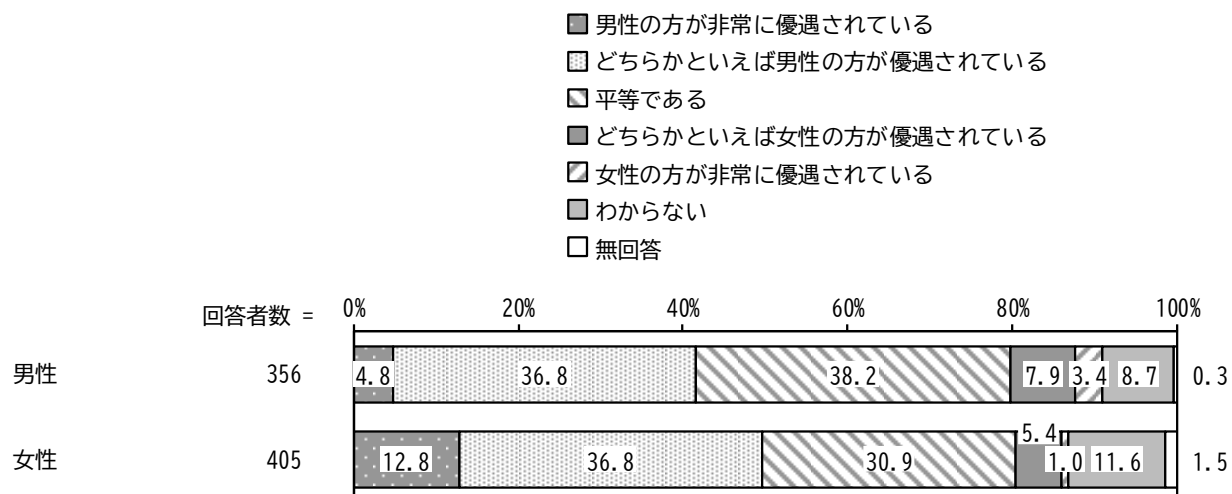
性別にみると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



② 職場

【性別】

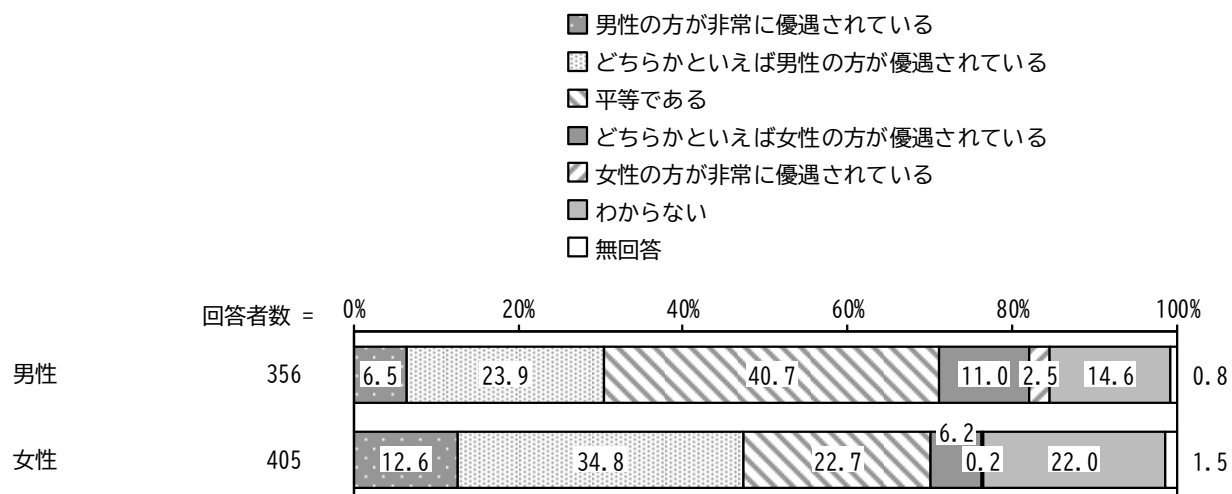
性別にみると、大きな差はみられません。



③ 地域活動の場

【性別】

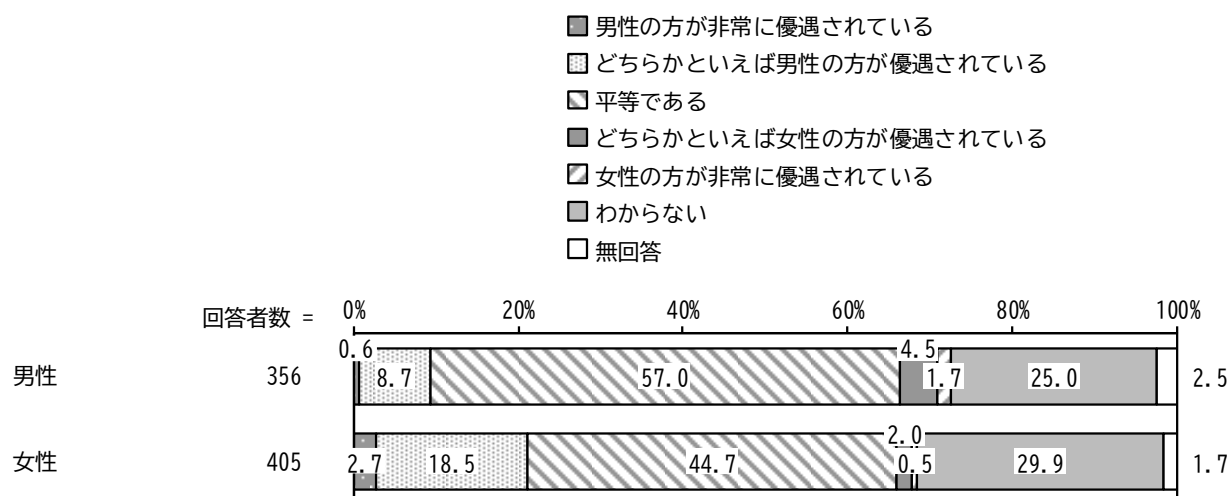
性別にみると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



④ 学校教育の場

【性別】

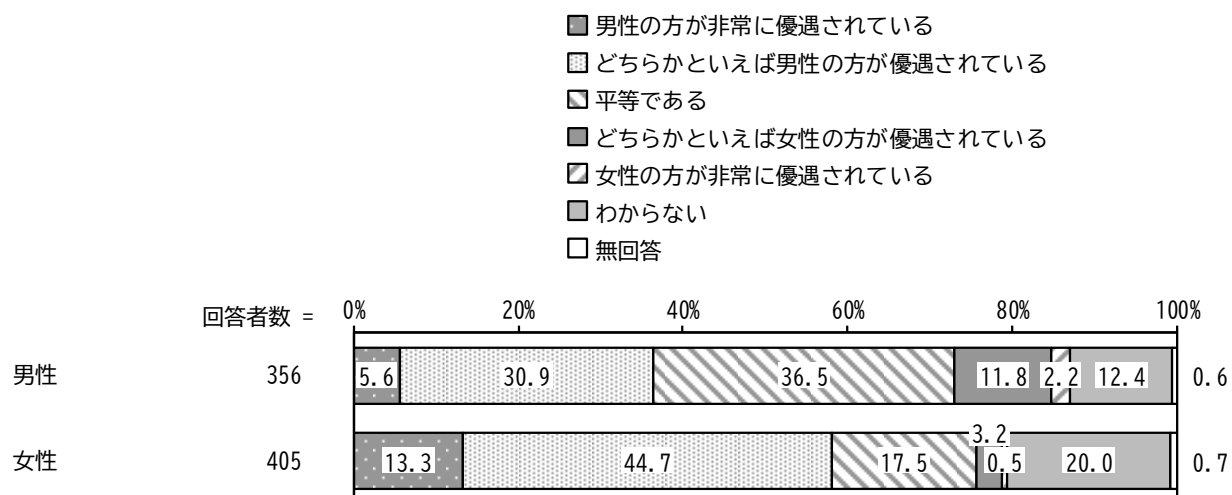
性別にみると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



⑤ 法律や制度上

【性別】

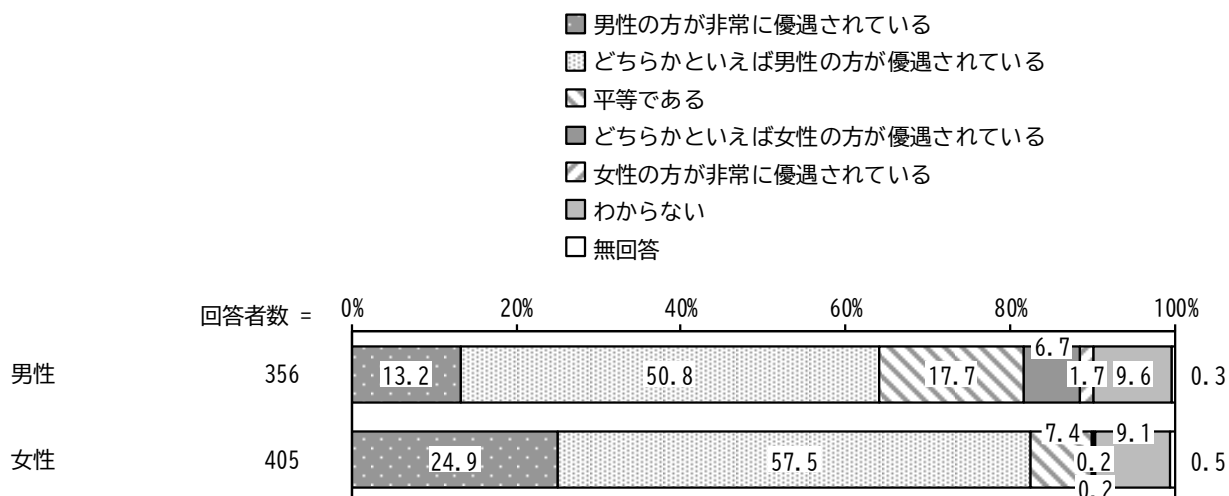
性別にみると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



⑥ 社会通念・慣習・しきたり

【性別】

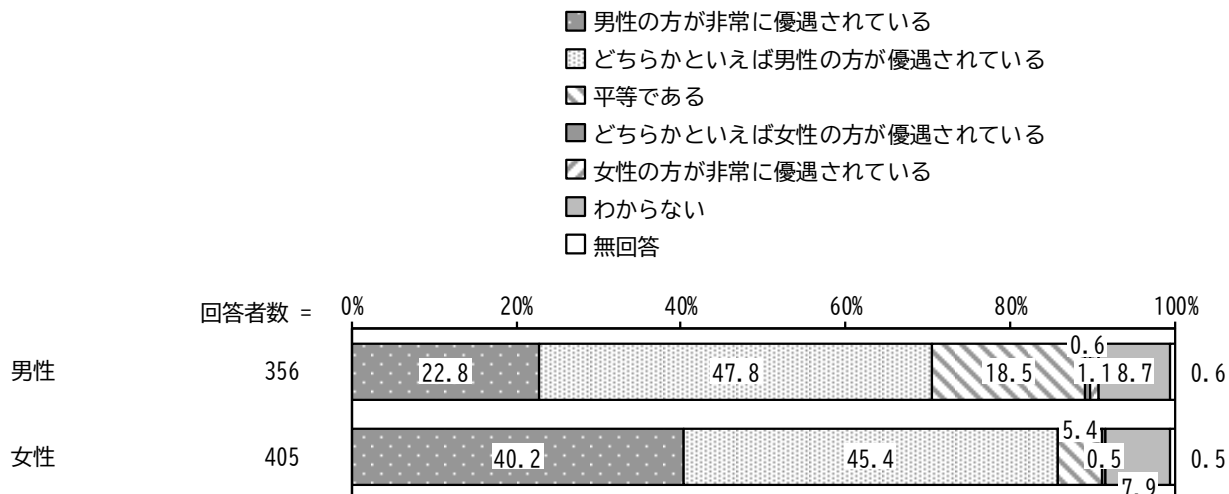
性別にみると、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



⑦ 政治の場

【性別】

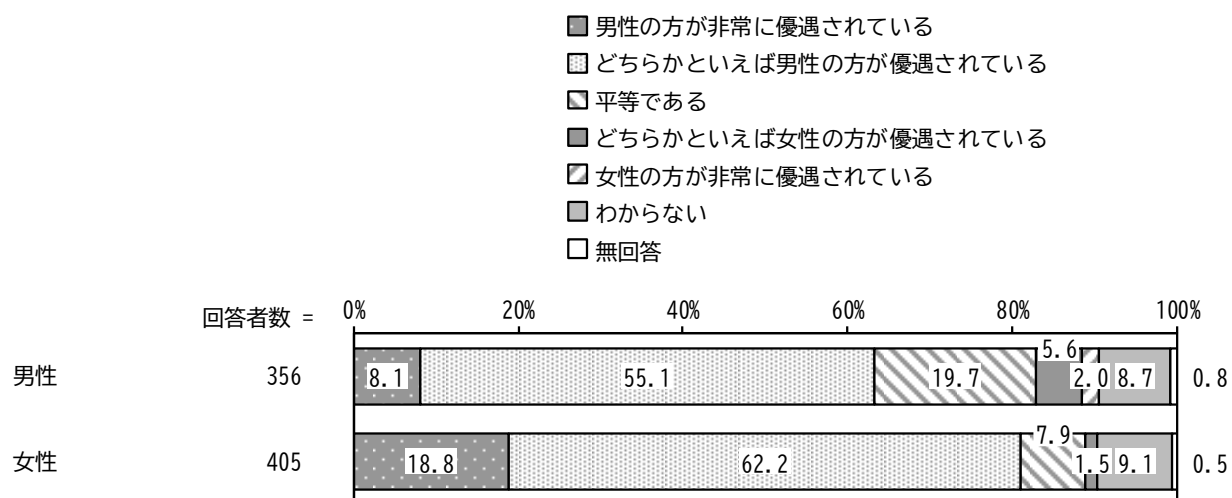
性別にみると、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



⑧ 社会全体として

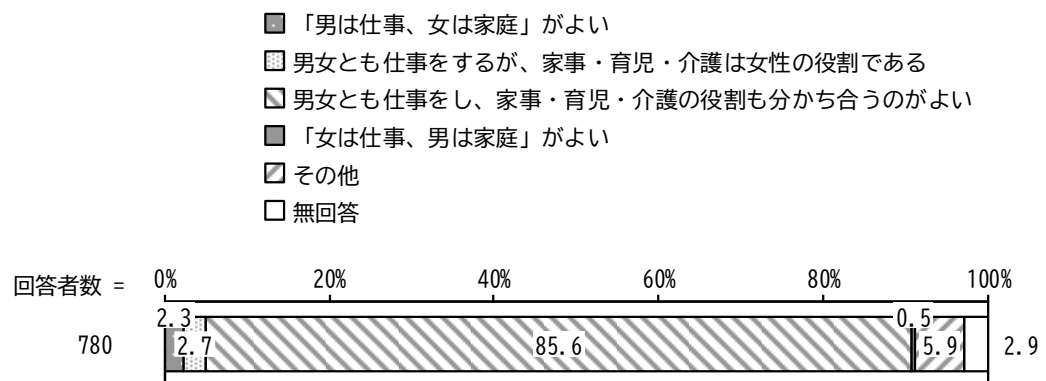
【性別】

性別にみると、男性で「平等である」の割合が高くなっています。



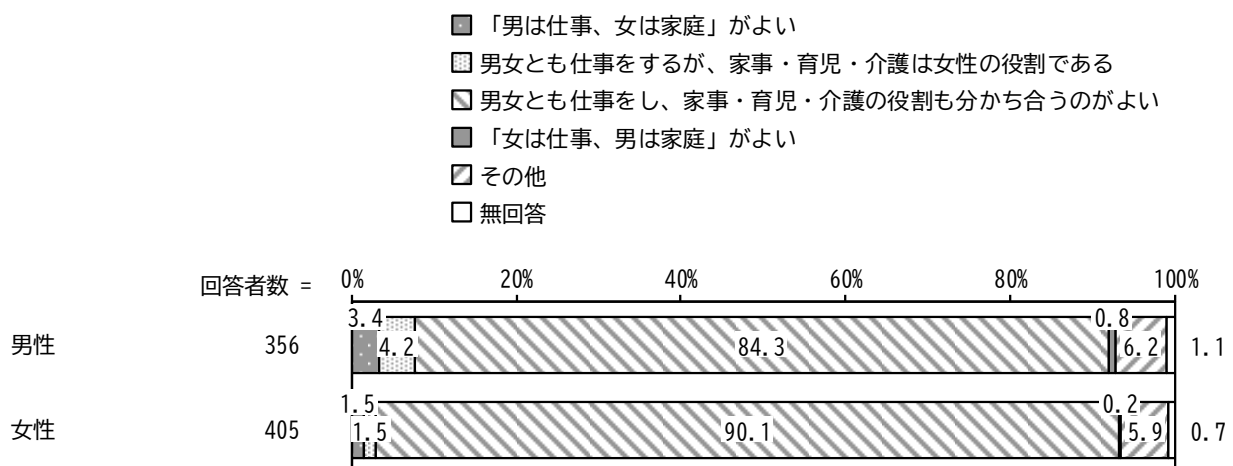
問1－2. 「男は仕事、女は家庭」に代表されるように、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。(〇は1つ)

「男女とも仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」の割合が85.6%と最も高く、次いで「男女とも仕事をするが、家事・育児・介護は女性の役割である」の割合が2.7%、「男は仕事、女は家庭」がよい」の割合が2.3%となっています。



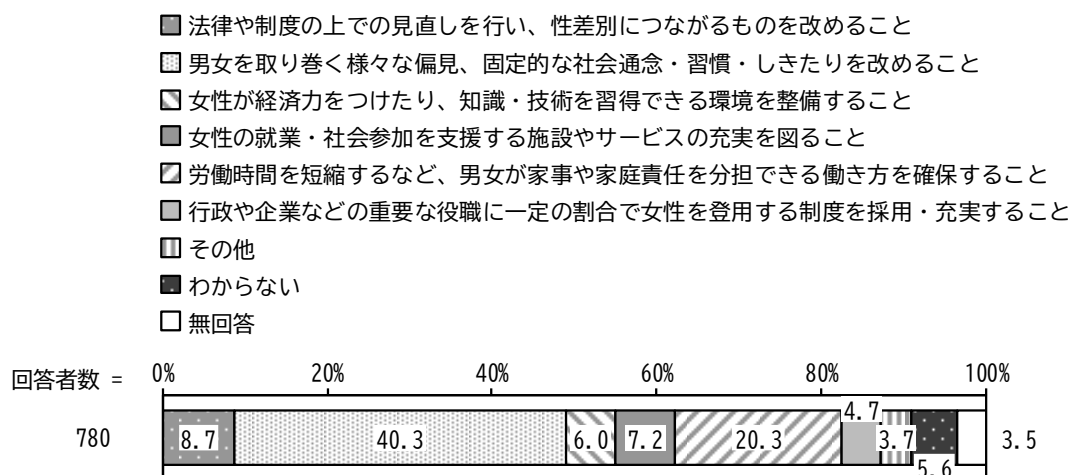
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



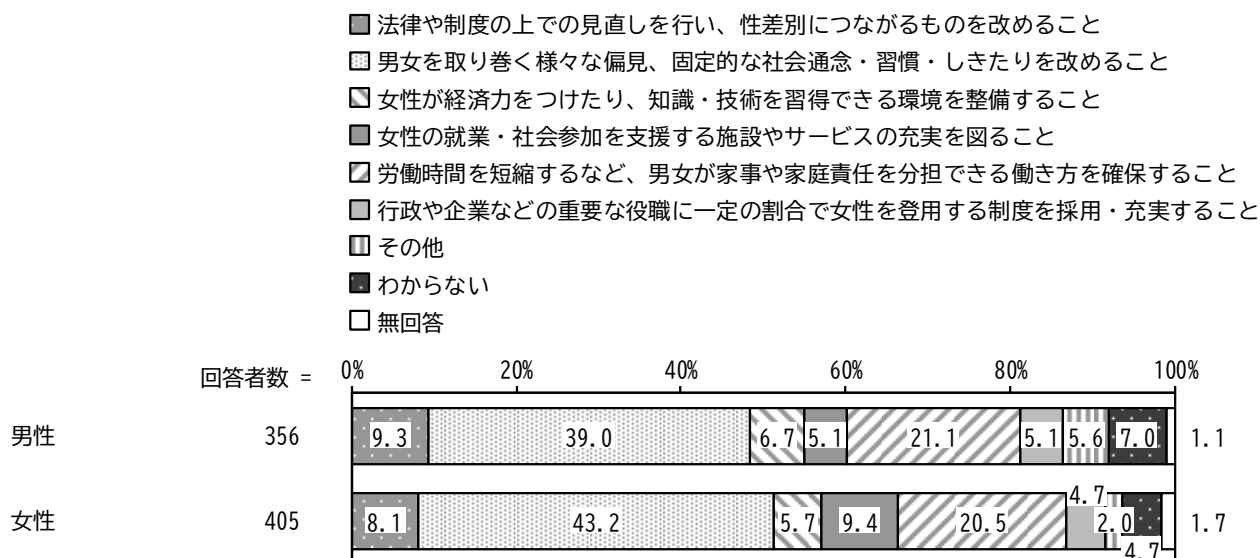
問1－3. 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は1つ)

「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」の割合が 40.3%と最も高く、次いで「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」の割合が 20.3%、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」の割合が 8.7%となっています。



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



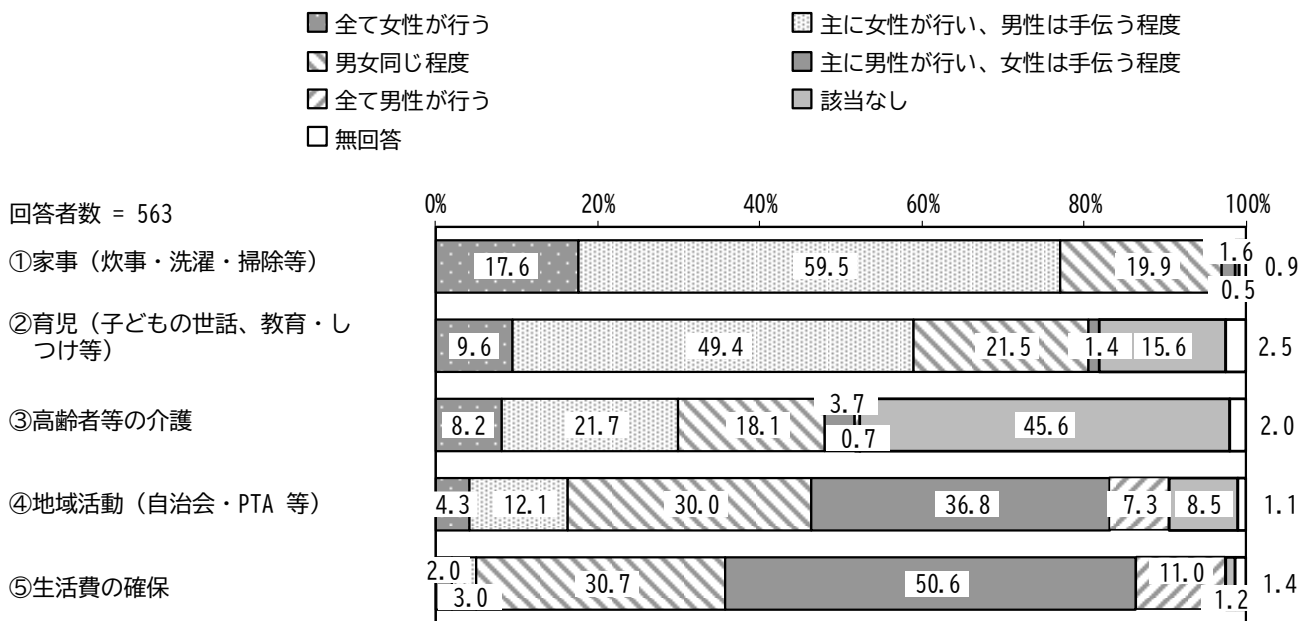
3 家庭生活について

<現在、配偶者・パートナー（事実婚を含む）と同居している方のみ（⑤で「2. 既婚（事実婚を含む）」と答えた方）にお伺いします。>

問2. あなたの家庭では、次の①から⑤のことについて、主として誰が行っていますか。（①から⑤まで、○は各項目1つずつ）

現状

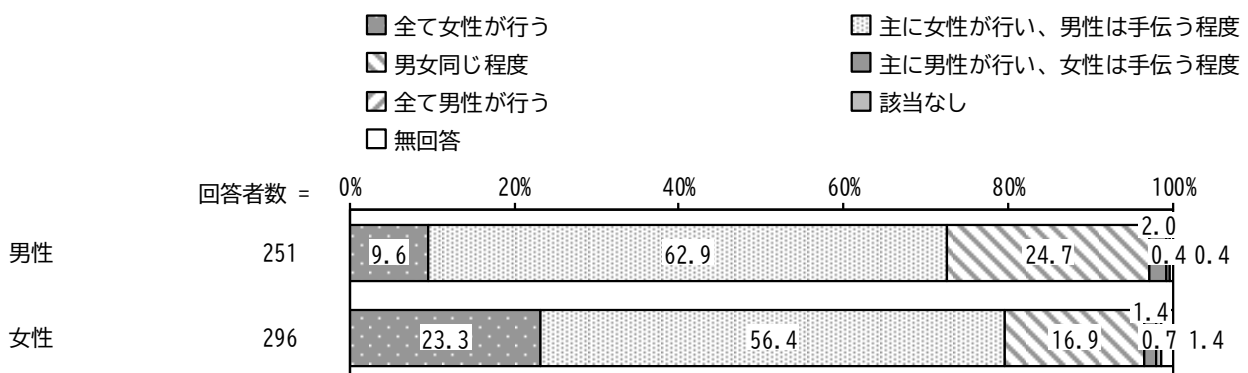
『①家事（炊事・洗濯・掃除等）』で「全て女性が行う」の割合が、『⑤生活費の確保』で「主に男性が行い、女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



①家事（炊事・洗濯・掃除等）

【性別】

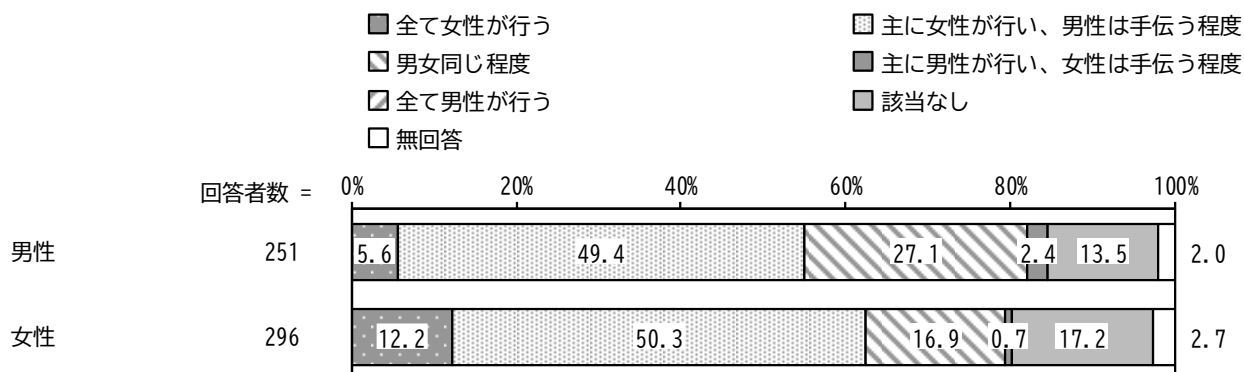
性別にみると、女性で「全て女性が行う」の割合が高くなっています。



②育児（子どもの世話、教育・しつけ等）

【性別】

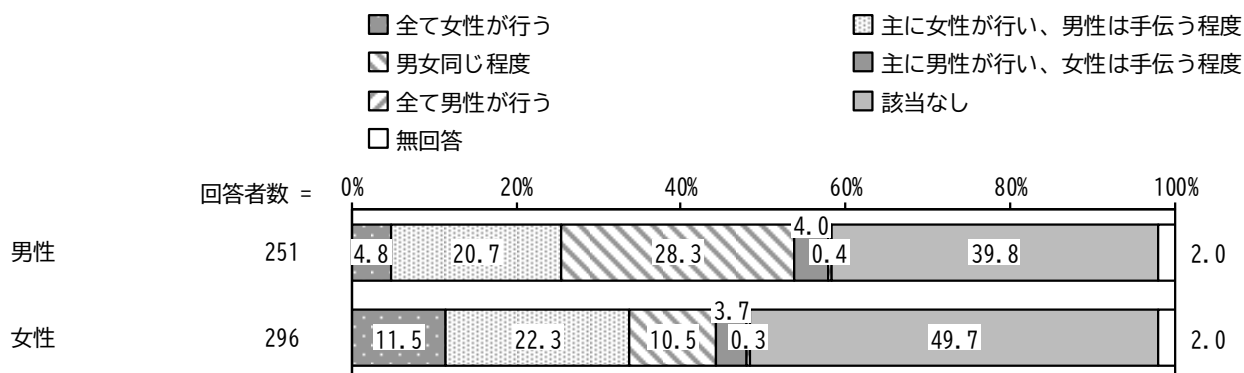
性別にみると、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



③高齢者等の介護

【性別】

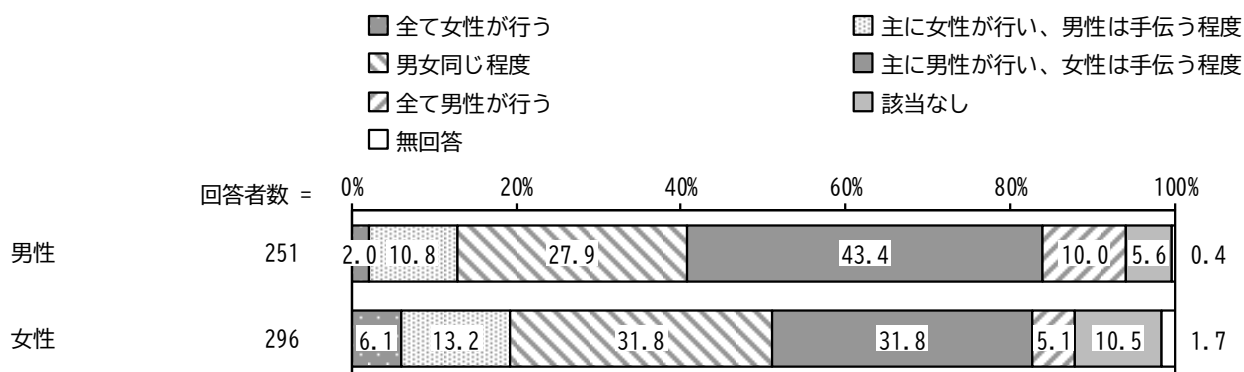
性別にみると、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



④地域活動（自治会・PTA等）

【性別】

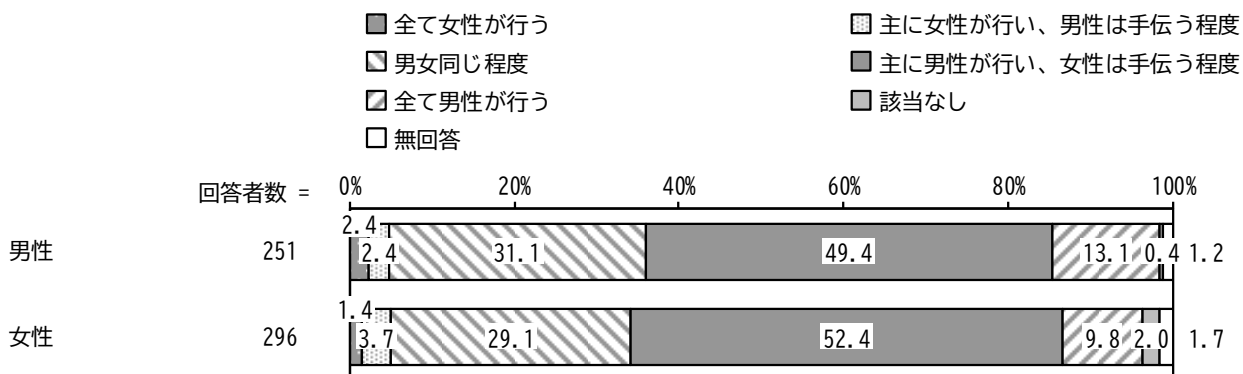
性別にみると、男性で「主に男性が行い、女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



⑤生活費の確保

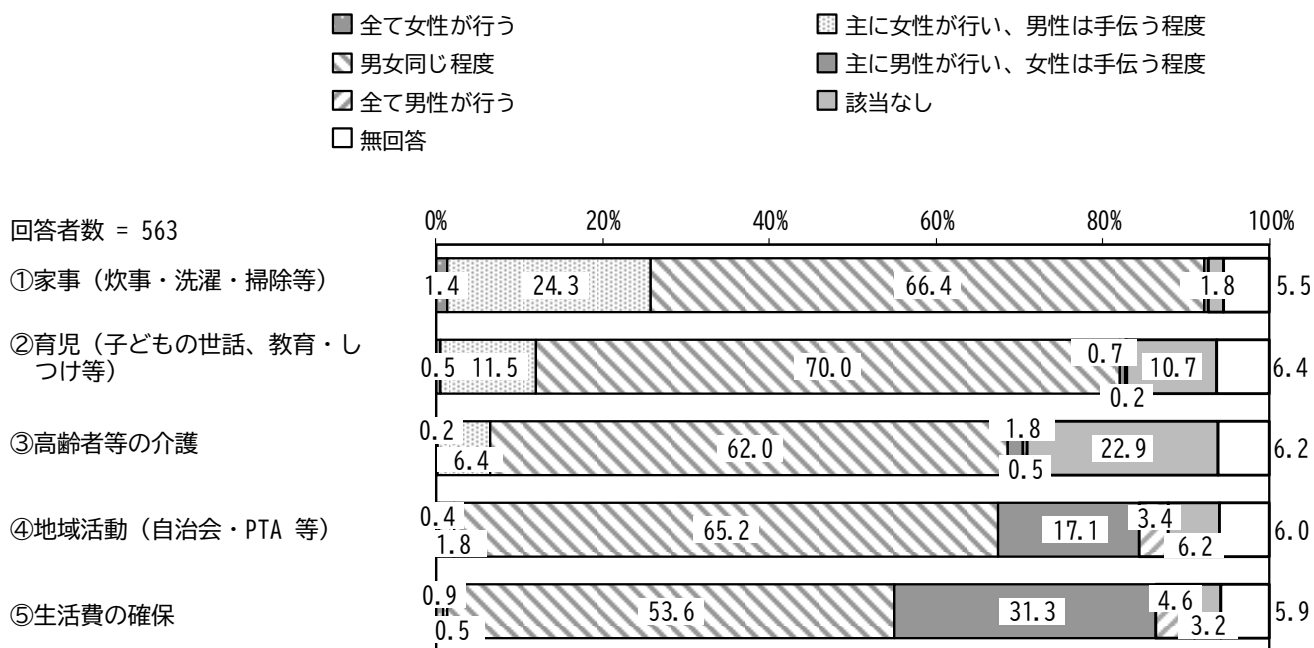
【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。



理想

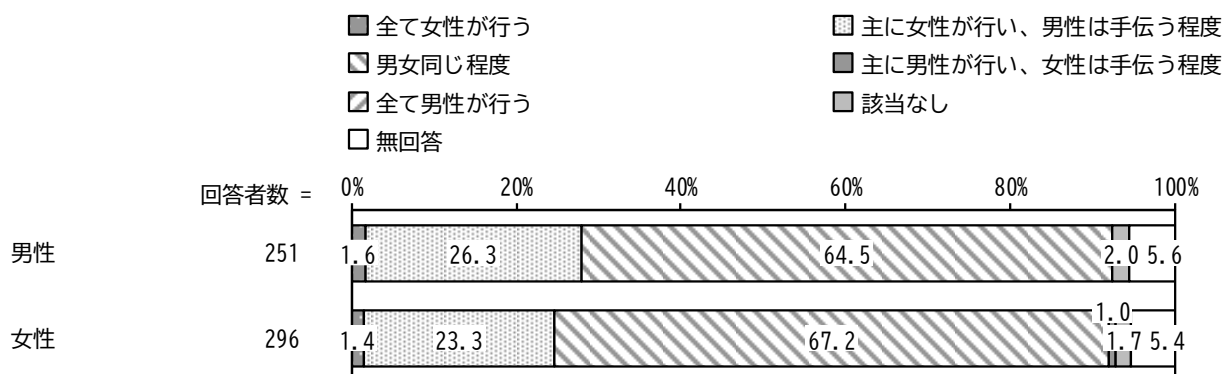
『①家事（炊事・洗濯・掃除等）』で「主に女性が行い、男性は手伝う程度」の割合が、『⑤生活費の確保』で「主に男性が行い、女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



①家事（炊事・洗濯・掃除等）

【性別】

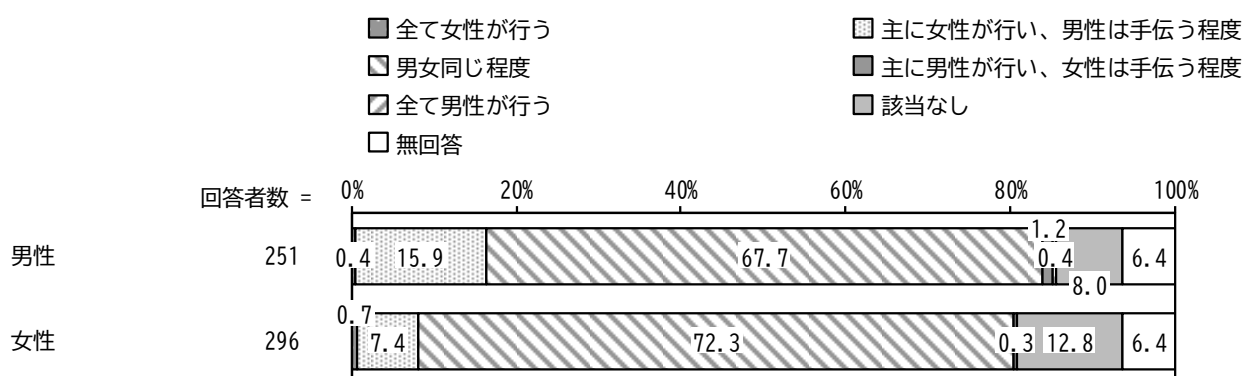
性別にみると、大きな差はみられません。



②育児（子どもの世話、教育・しつけ等）

【性別】

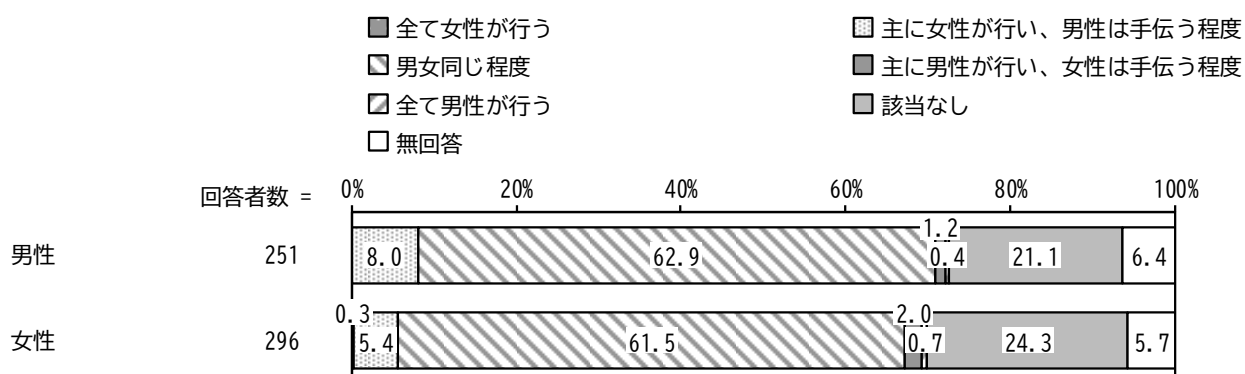
性別にみると、大きな差はみられません。



③高齢者等の介護

【性別】

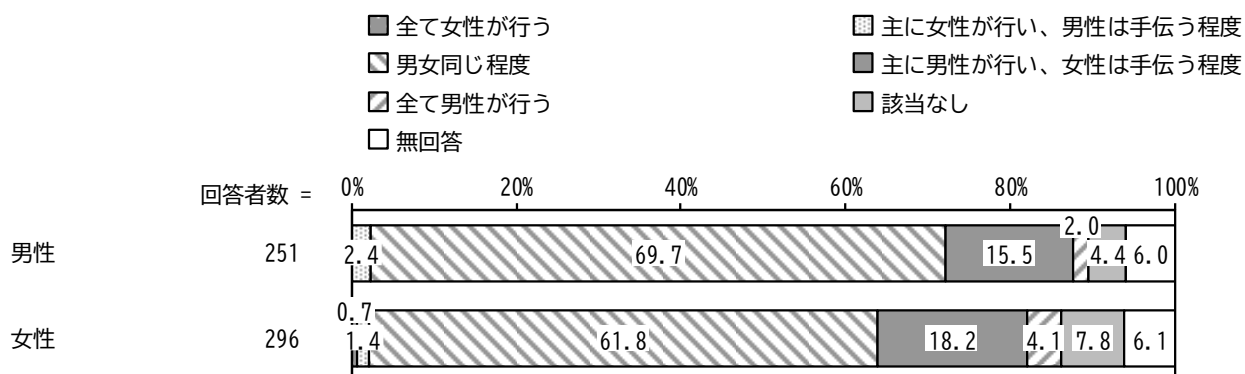
性別にみると、大きな差はみられません。



④地域活動（自治会・PTA等）

【性別】

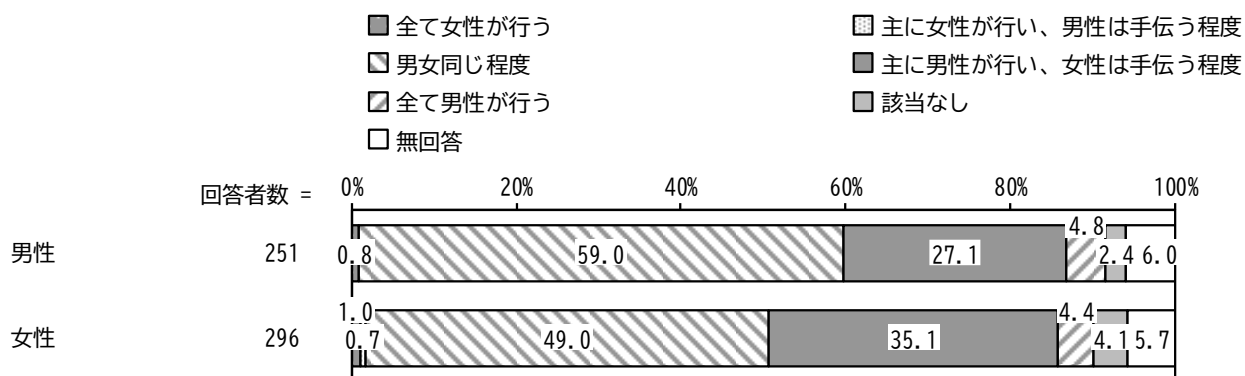
性別にみると、大きな差はみられません。



⑤生活費の確保

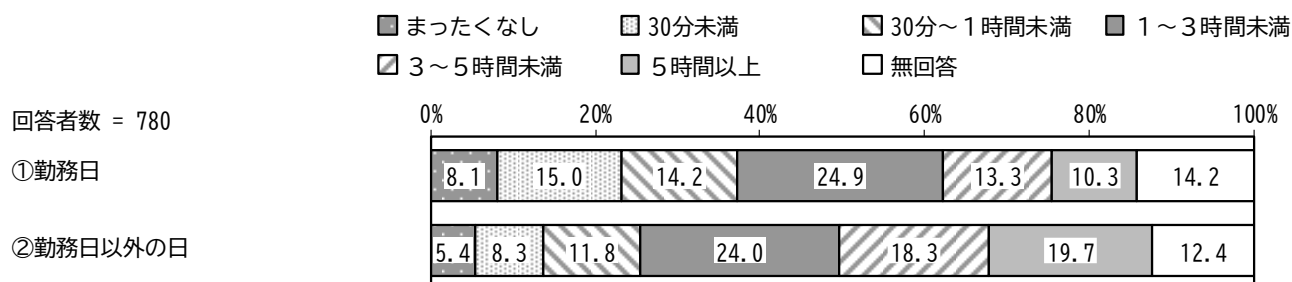
【性別】

性別にみると、男性で「男女同じ程度」の割合が高くなっています。



問3. あなたが家事・育児・介護に関わる時間は、1日あたりどれくらいですか。(〇は各項目1つずつ)

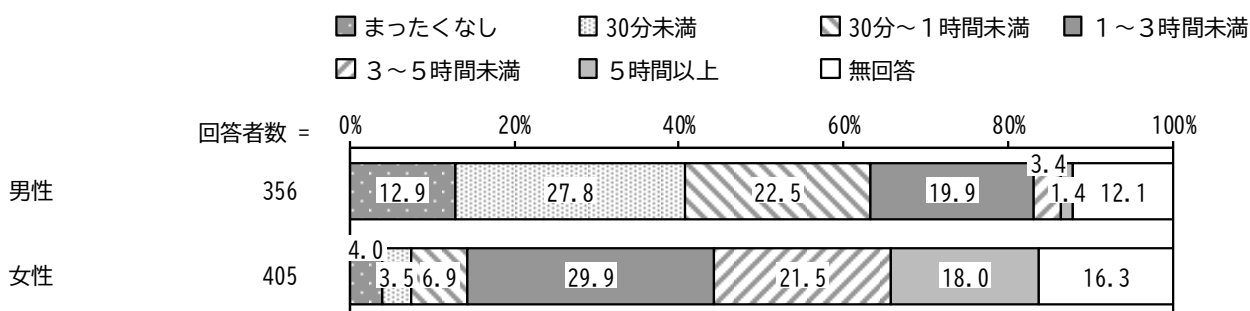
『①勤務日』で「30分未満」の割合が、『②勤務日以外の日』で「5時間以上」の割合が高くなっています。



① 勤務日

【性別】

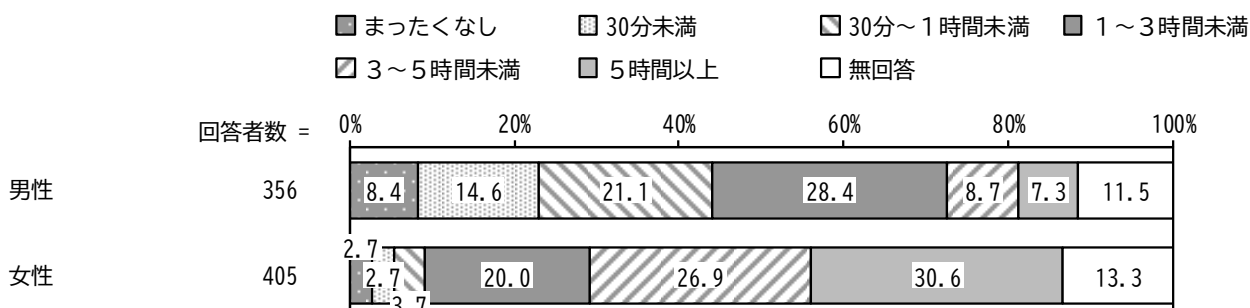
性別にみると、男性で「30分未満」の割合が高くなっています。



② 勤務日以外の日

【性別】

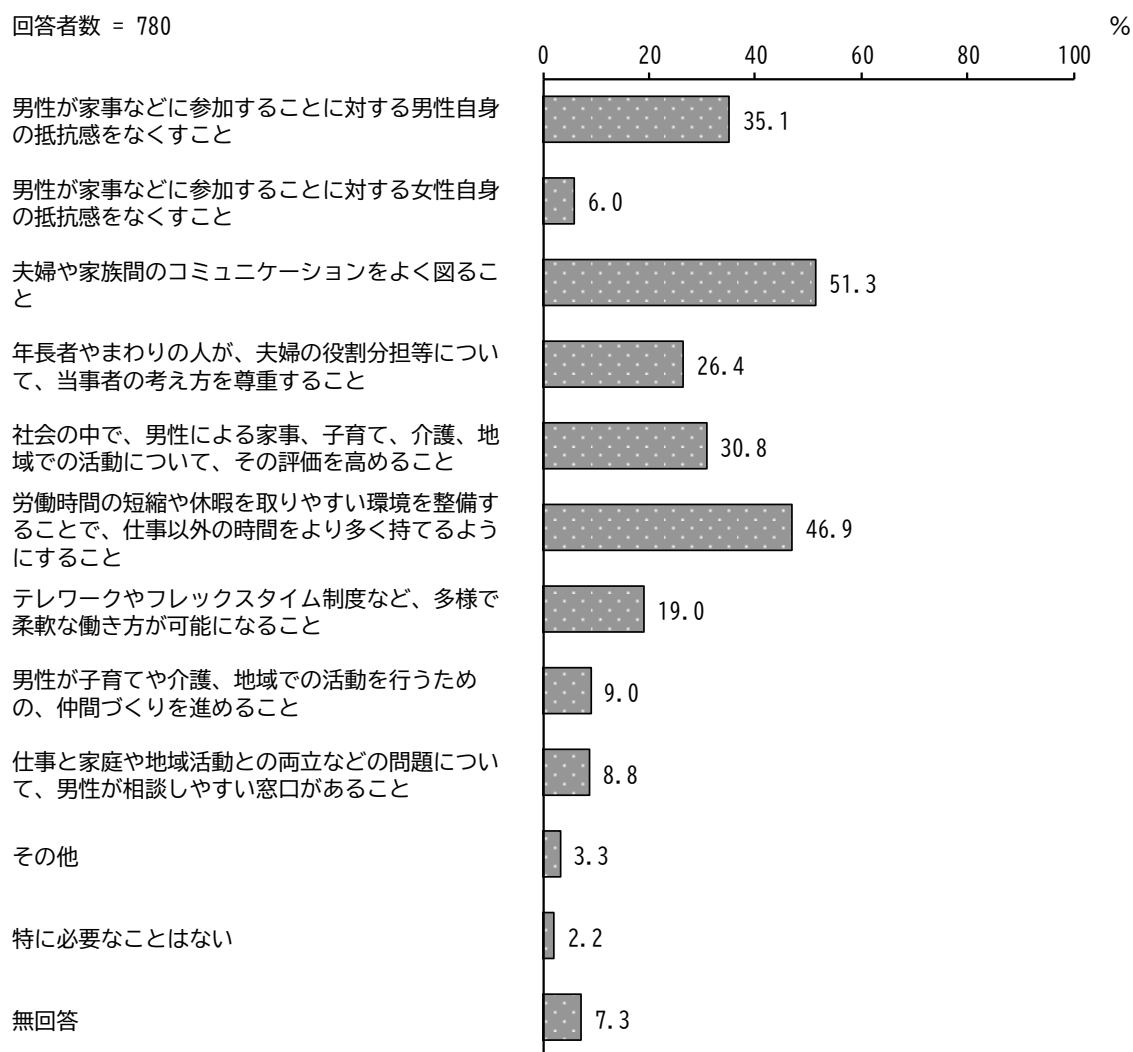
性別にみると、女性で「5時間以上」の割合が高くなっています。



問4. 今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（優先順位の高い項目から○を3つ）

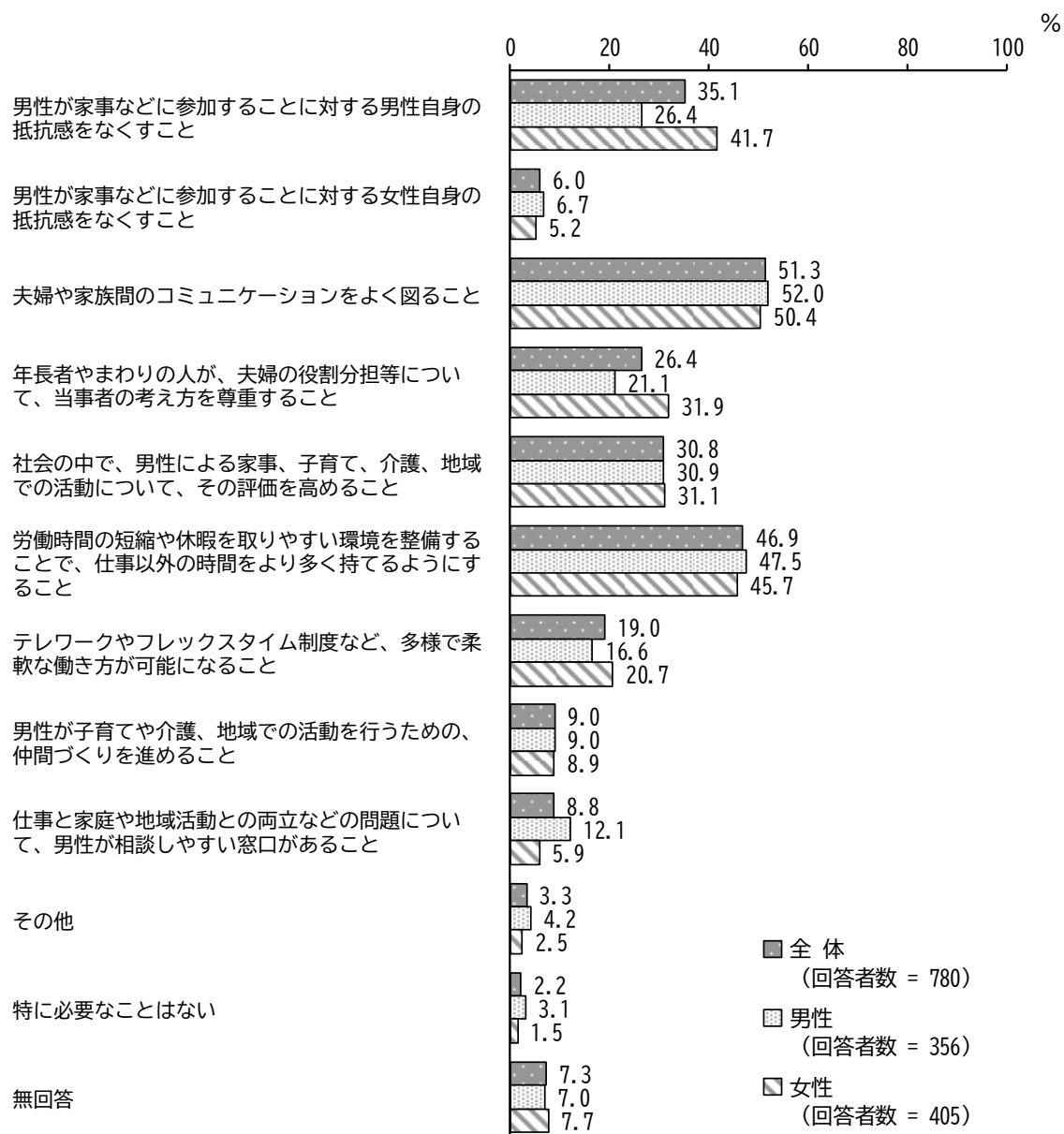
「夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること」の割合が 51.3%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が 46.9%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 35.1%となっています。

回答者数 = 780



【性別】

性別にみると、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が高くなっています。

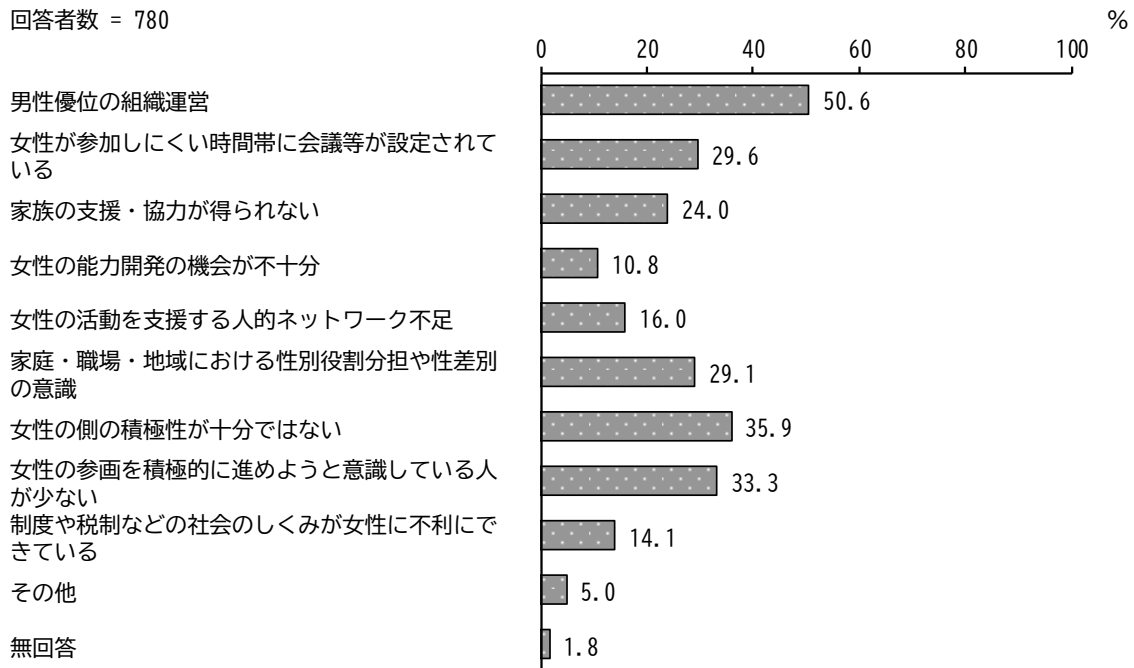


4 地域活動や社会参画について

問5. 女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(〇は3つ)

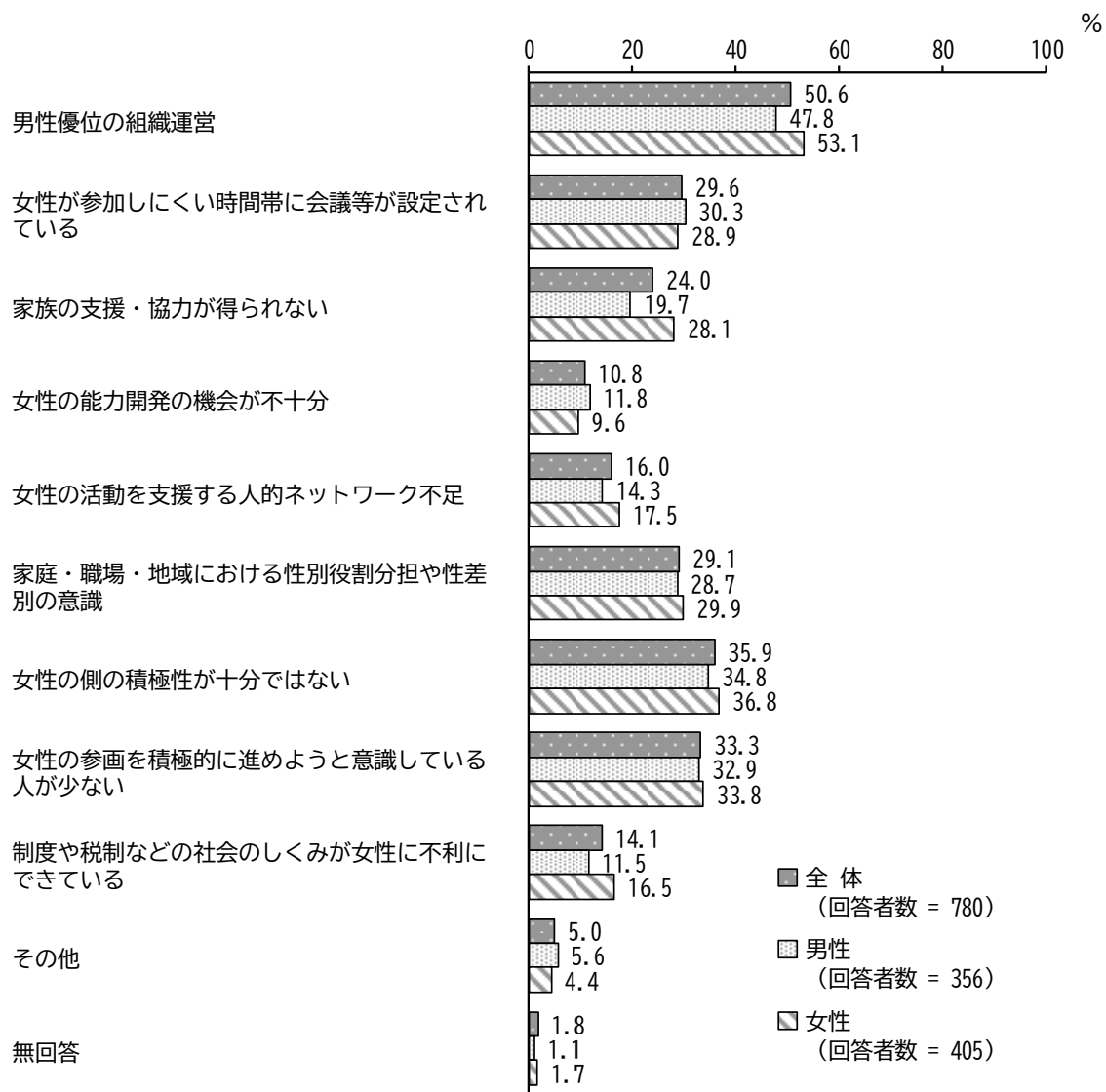
「男性優位の組織運営」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「女性の側の積極性が十分ではない」の割合が 35.9%、「女性の参画を積極的に進めよう意識している人が少ない」の割合が 33.3%となっています。

回答者数 = 780



【性別】

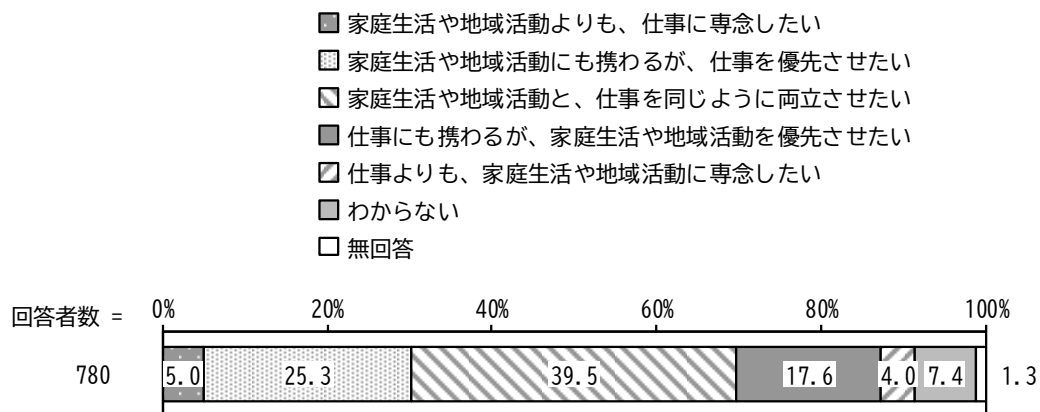
性別にみると、大きな差はみられません。



5 就労・働き方について

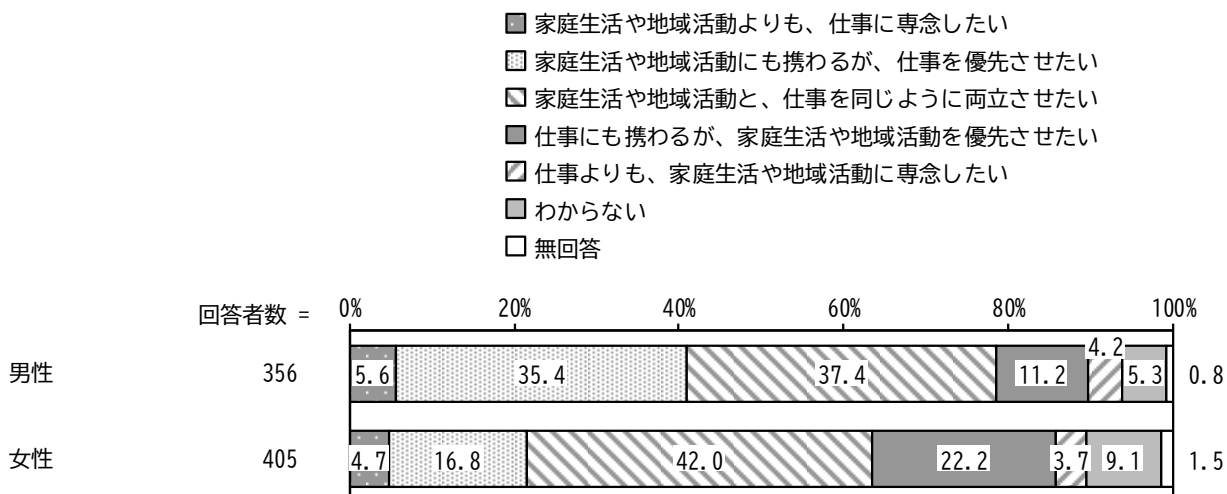
問6. あなたの働き方について、希望に最も近いものは次のどれですか。(○は1つ)

「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立させたい」の割合が39.5%と最も高く、次いで「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させたい」の割合が25.3%、「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させたい」の割合が17.6%となっています。



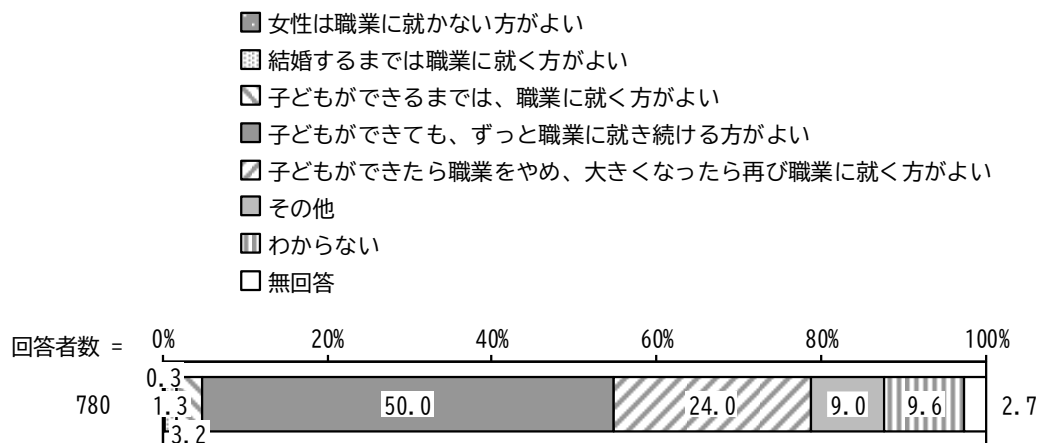
【性別】

性別にみると、男性で「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させたい」の割合が高くなっています。



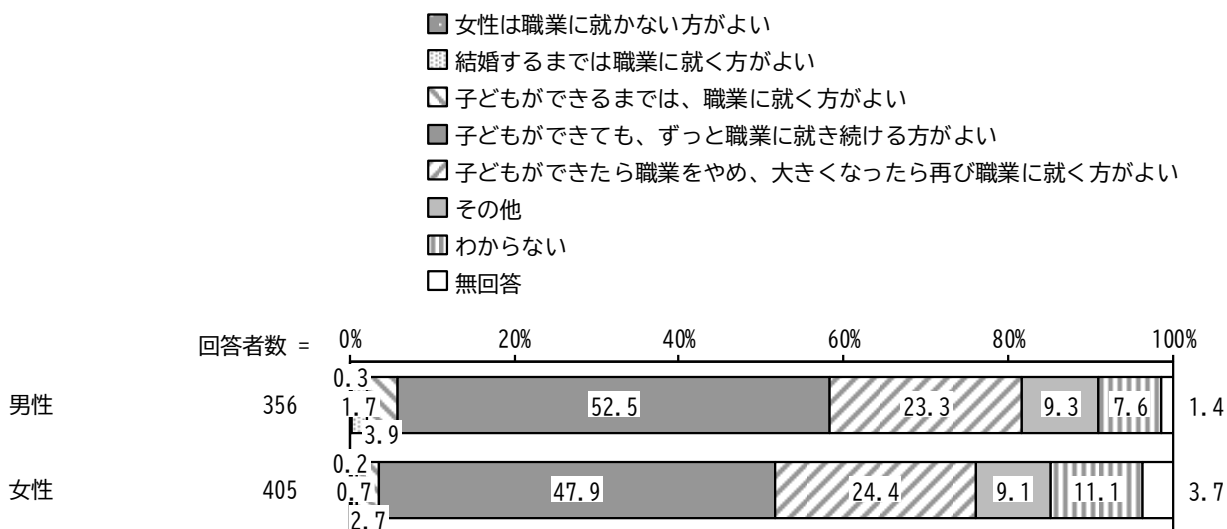
問7. 女性が職業（仕事）に就くことについて、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

「子どもができて、ずっと職業に就き続ける方がよい」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい」の割合が 24.0%、「わからない」の割合が 9.6%となっています。



【性別】

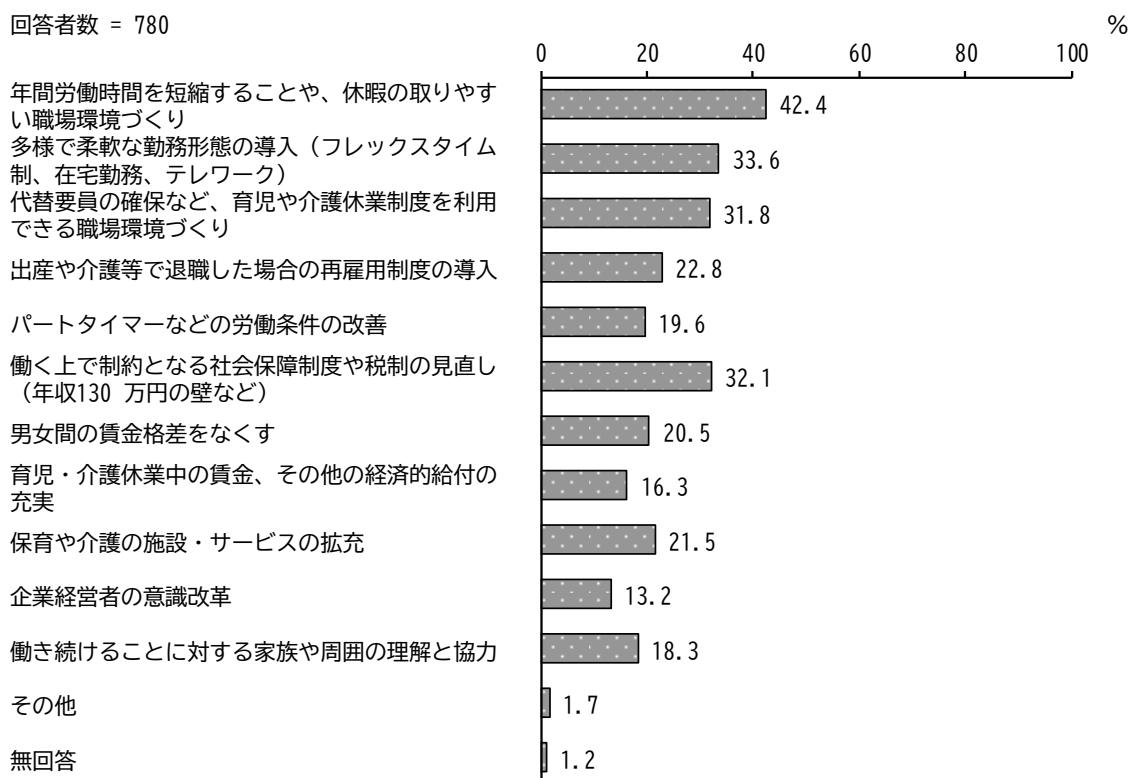
性別にみると、大きな差はみられません。



問8. それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭の両立」をするためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(〇は3つ)

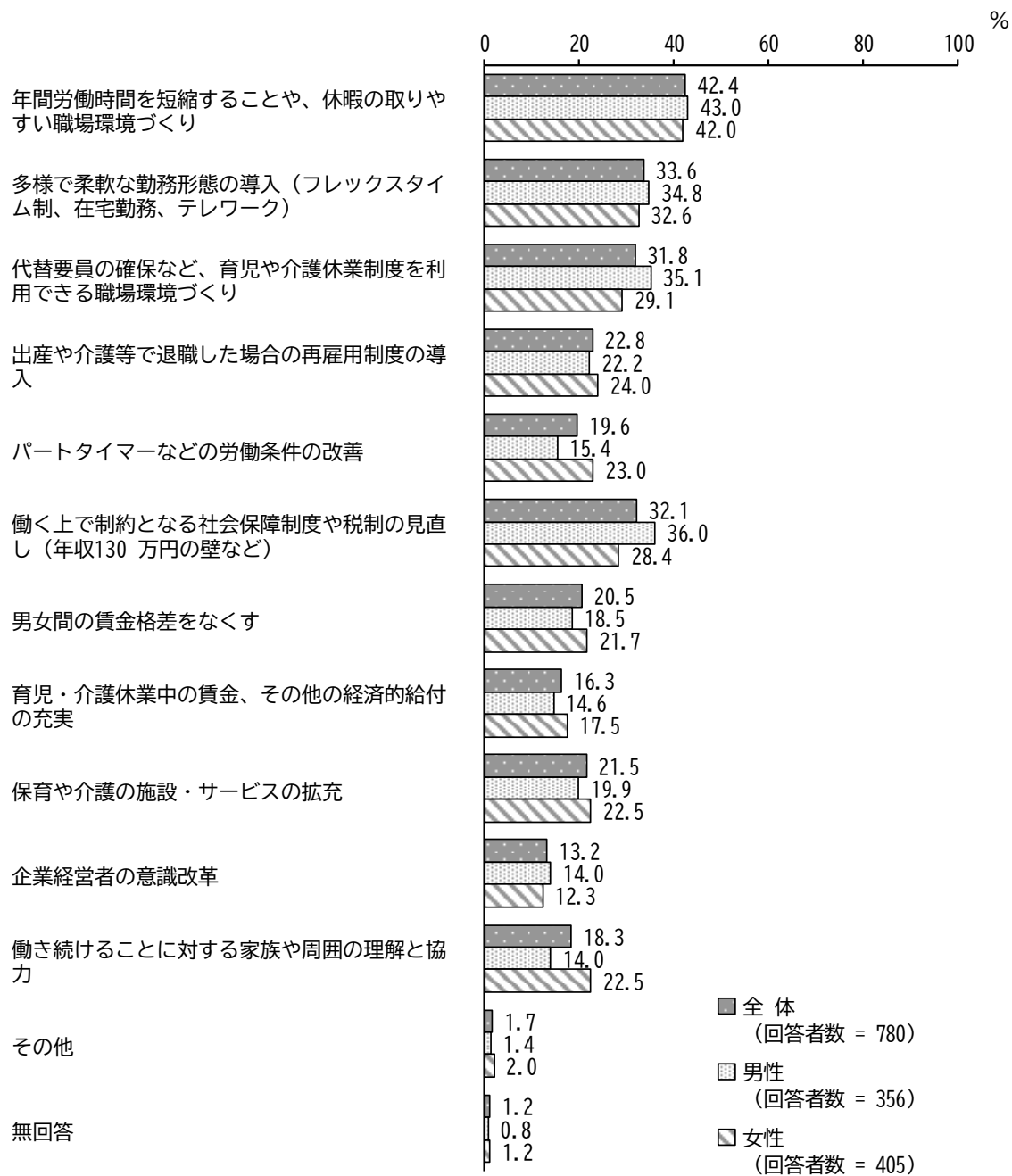
「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」の割合が42.4%と最も高く、次いで「多様で柔軟な勤務形態の導入(フレックスタイム制、在宅勤務、テレワーク)」の割合が33.6%、「働く上で制約となる社会保障制度や税制の見直し(年収130万円の壁など)」の割合が32.1%となっています。

回答者数 = 780



【性別】

性別にみると、大きな差はみられません。

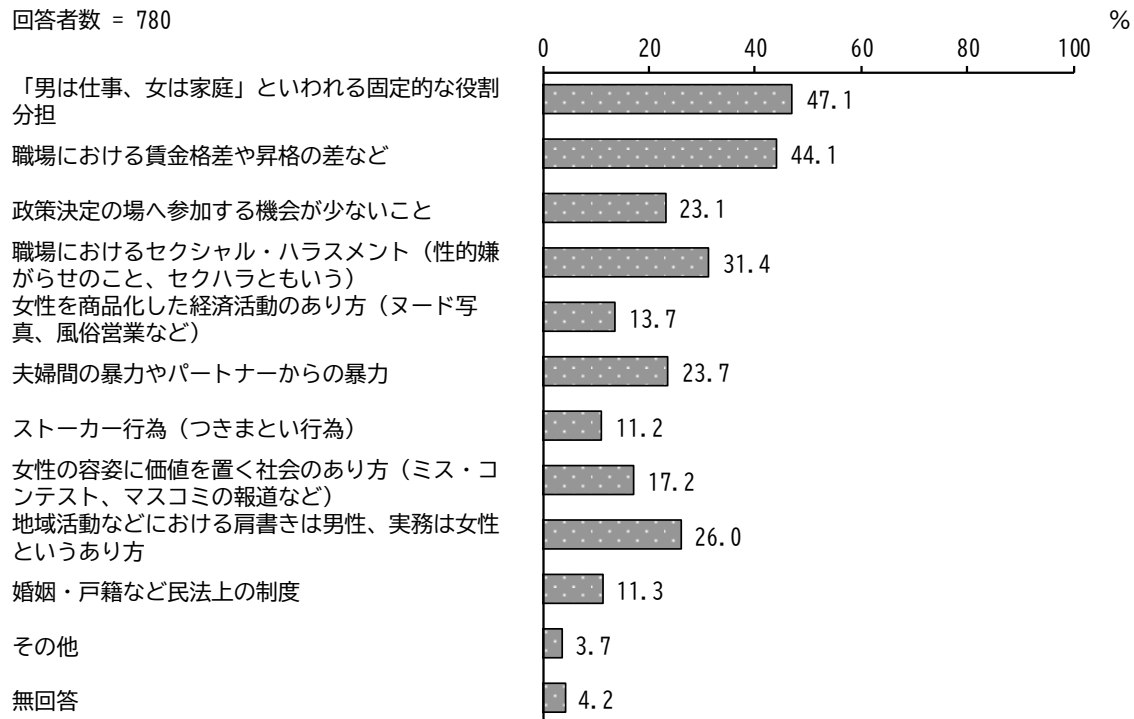


6 DV（ドメスティック・バイオレンス）、ハラスメント等について

問9. 男女の人権が尊重されていないと思うものを選んでください。（特にそう思うものから○を3つ）

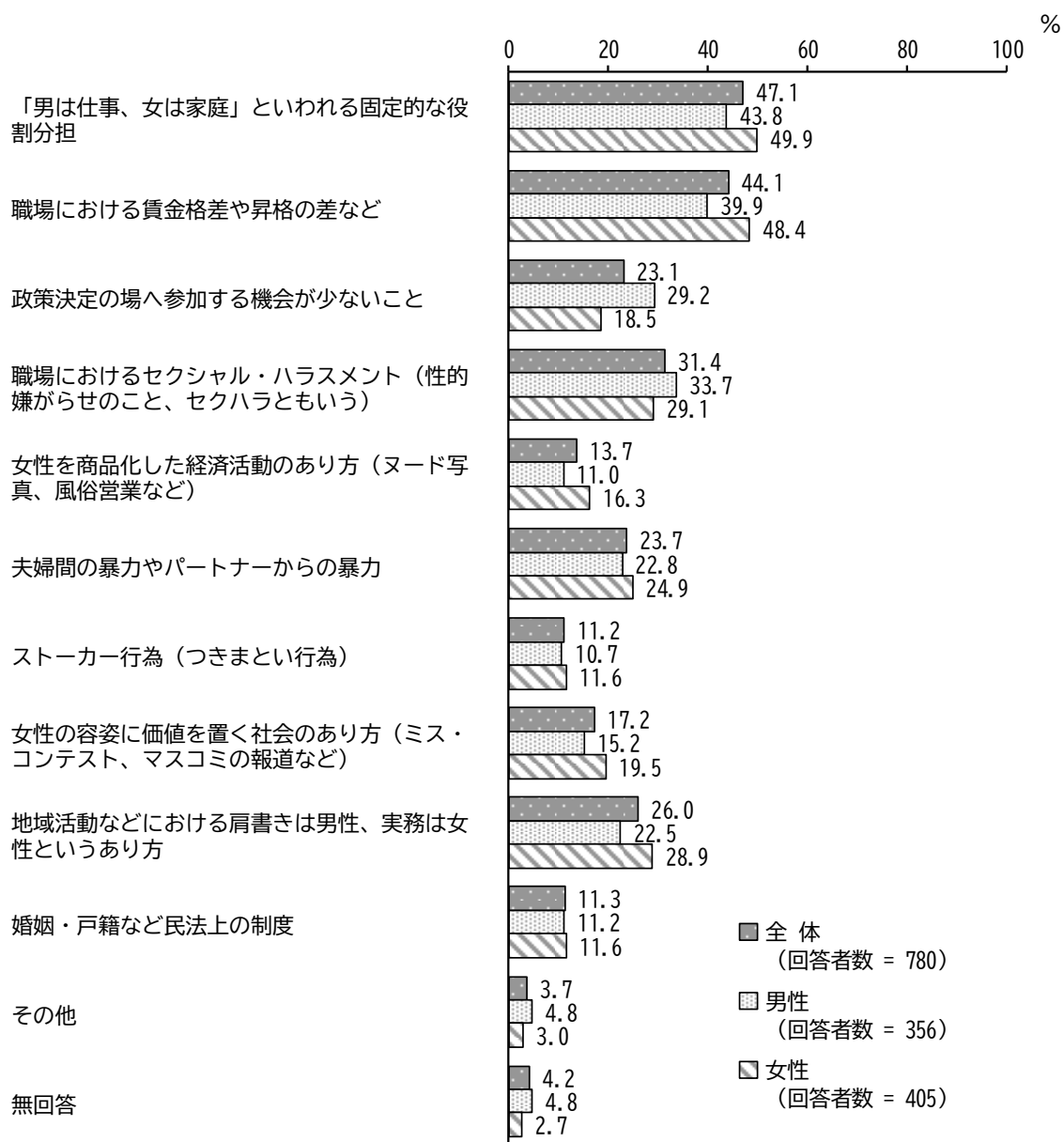
「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担」の割合が47.1%と最も高く、次いで「職場における賃金格差や昇格の差など」の割合が44.1%、「職場におけるセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせのこと、セクハラともいう）」の割合が31.4%となっています。

回答者数 = 780



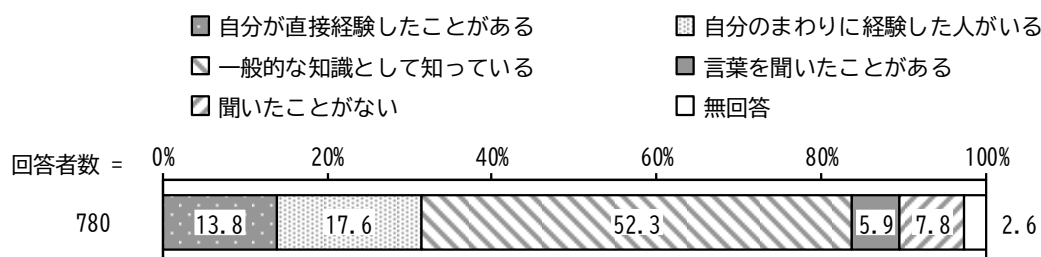
【性別】

性別にみると、男性で「政策決定の場へ参加する機会が少ないこと」の割合が高くなっています。



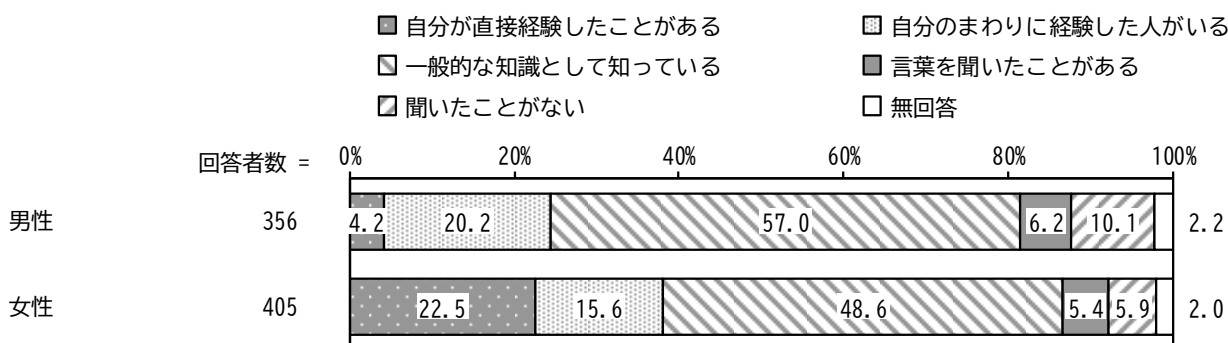
問 10. セクシュアル・ハラスメントについて、自分が経験したり、そのような話を聞いたりしたことがありますか。(○は1つ)

「一般的な知識として知っている」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「自分のまわりに経験した人がある」の割合が 17.6%、「自分が直接経験したことがある」の割合が 13.8%となっています。



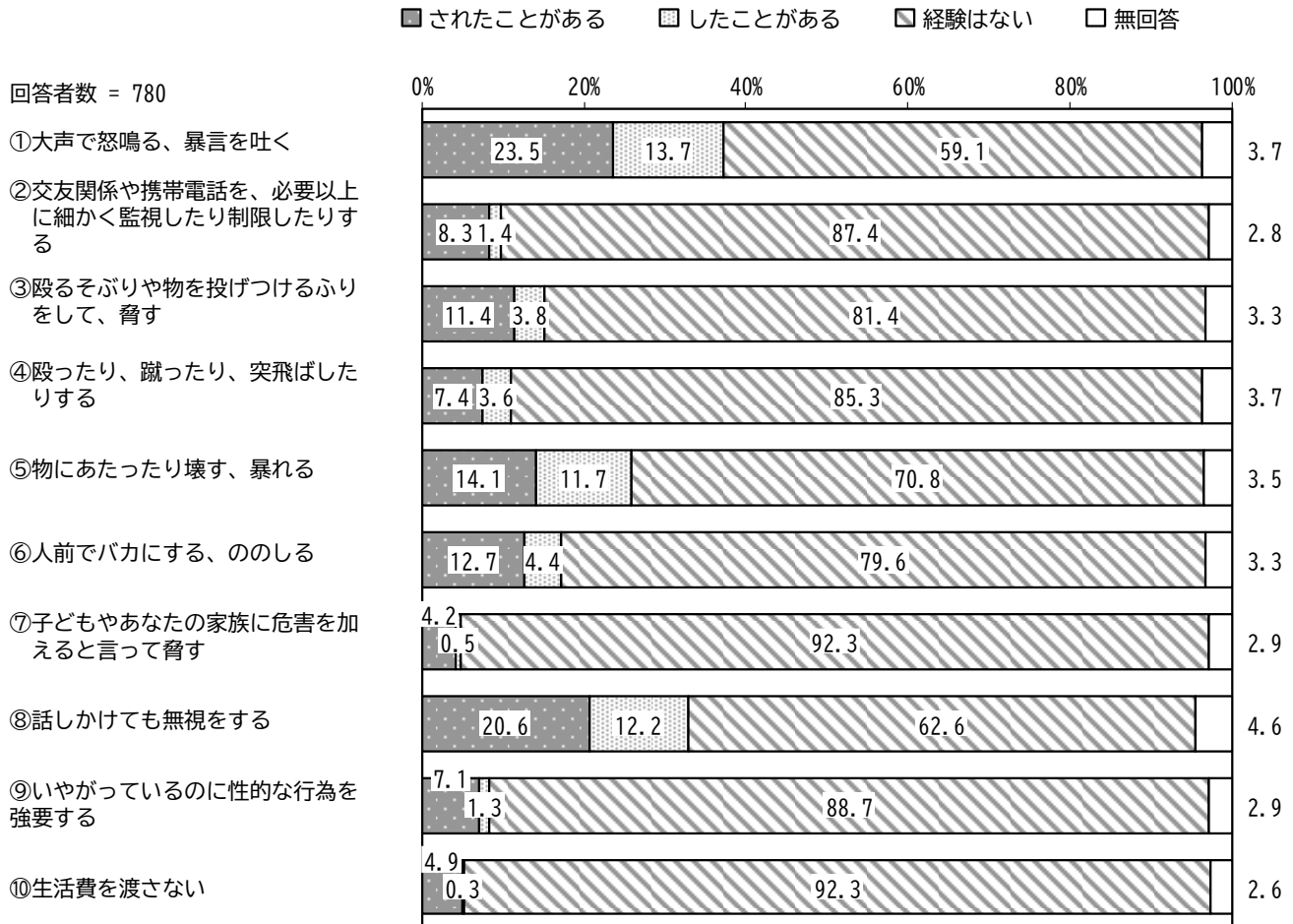
【性別】

性別にみると、女性で「自分が直接経験したことがある」の割合が高くなっています。



問 11. あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされたこと、あるいはしたことがありますか。(①から⑩まで、○は各項目1つずつ)

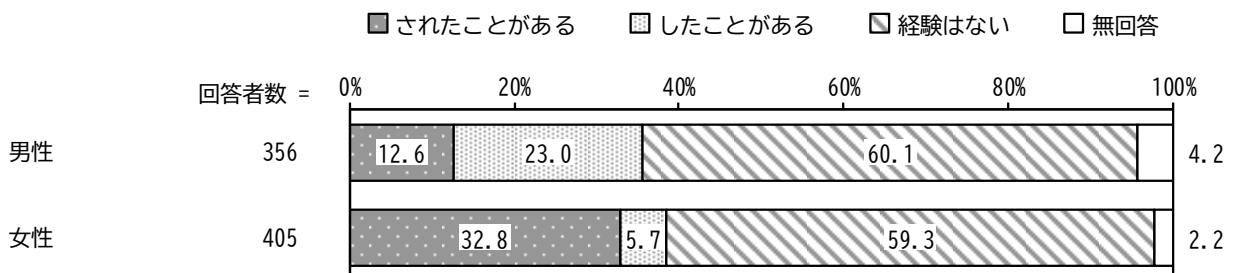
『①大声で怒鳴る、暴言を吐く』『⑧話しかけても無視をする』で「されたことがある」の割合が、
『⑦子どもやあなたの家族に危害を加えると言って脅す』『⑩生活費を渡さない』で「経験はない」の割合が高くなっています。



① 大声で怒鳴る、暴言を吐く

【性別】

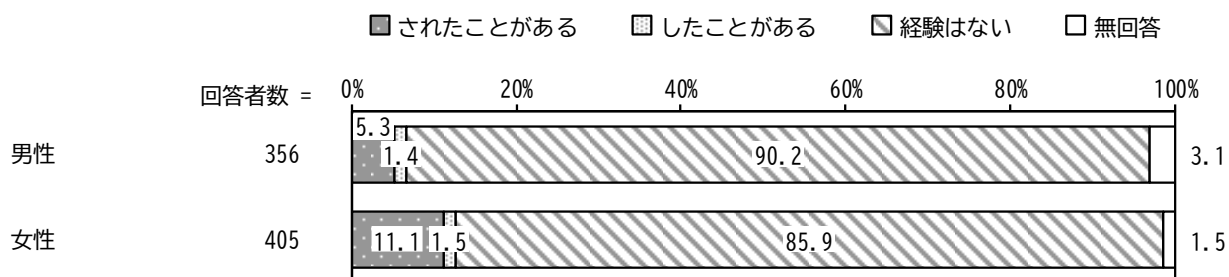
性別にみると、男性で「したことがある」の割合が高くなっています。



② 交友関係や携帯電話を、必要以上に細かく監視したり制限したりする

【性別】

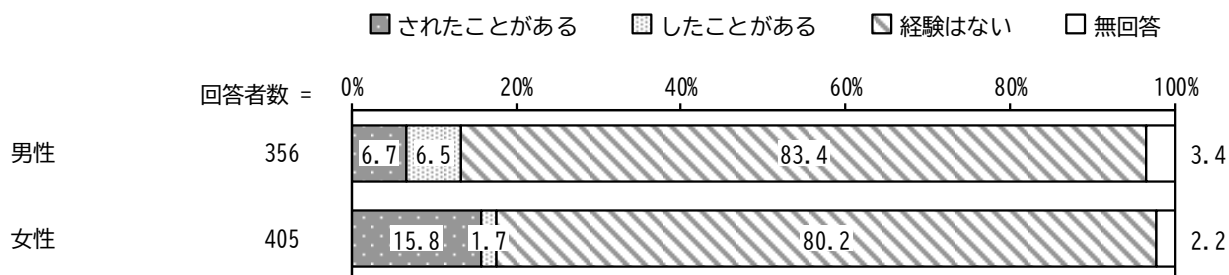
性別にみると、大きな差はみられません。



③ 殴るそぶりや物を投げつけるふりをして、脅す

【性別】

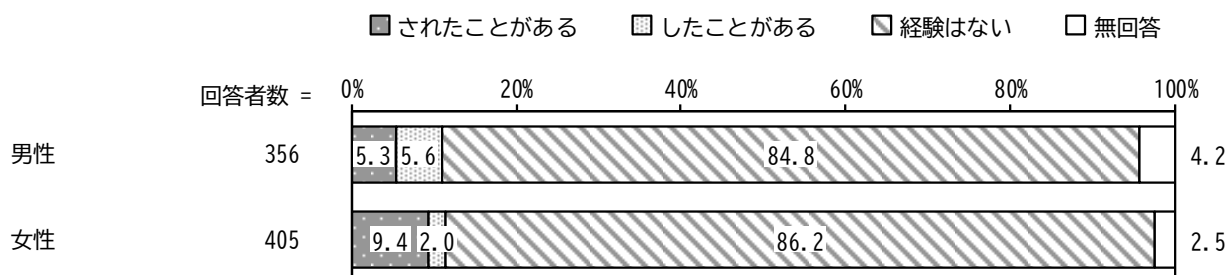
性別にみると、大きな差はみられません。



④ 殴ったり、蹴ったり、突飛ばしたりする

【性別】

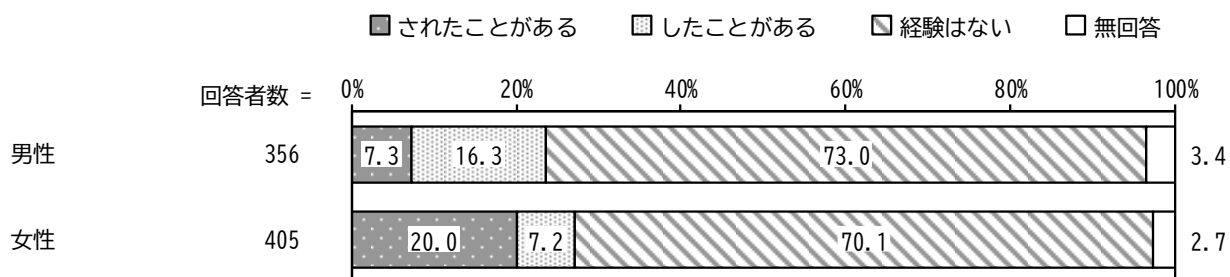
性別にみると、大きな差はみられません。



⑤ 物にあたったり壊す、暴れる

【性別】

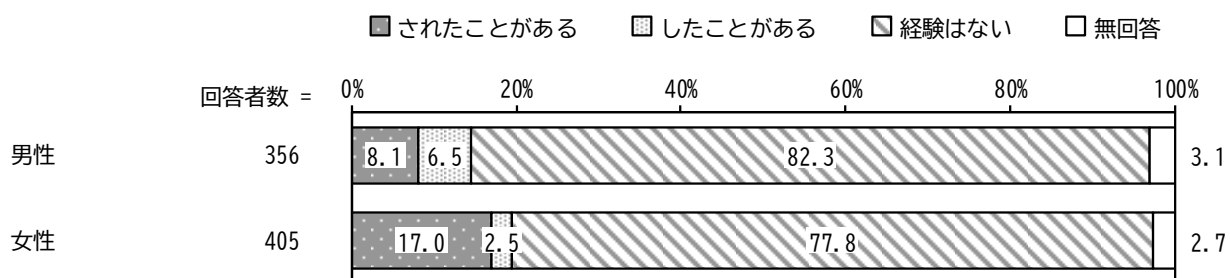
性別にみると、女性で「されたことがある」の割合が高くなっています。



⑥ 人前でバカにする、ののしる

【性別】

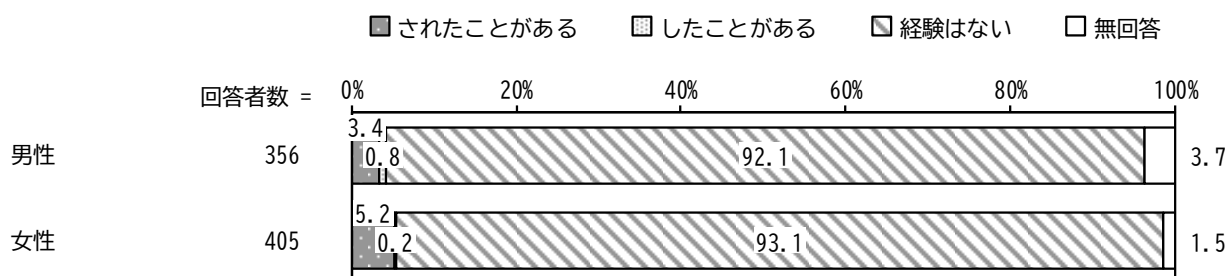
性別にみると、大きな差はみられません。



⑦ 子どもやあなたの家族に危害を加えると言って脅す

【性別】

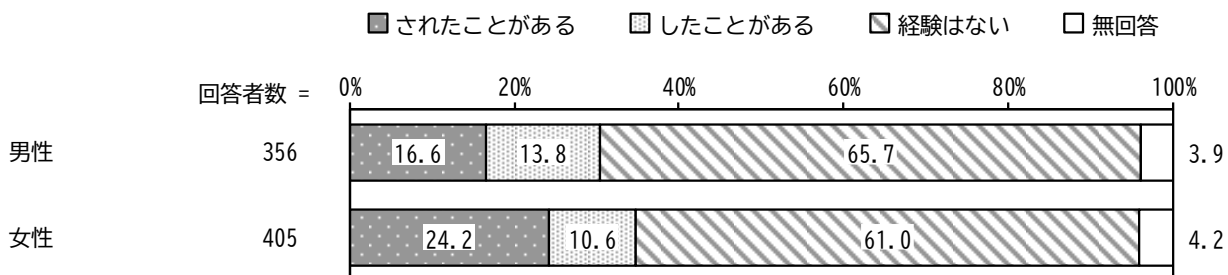
性別にみると、大きな差はみられません。



⑧ 話しかけても無視をする

【性別】

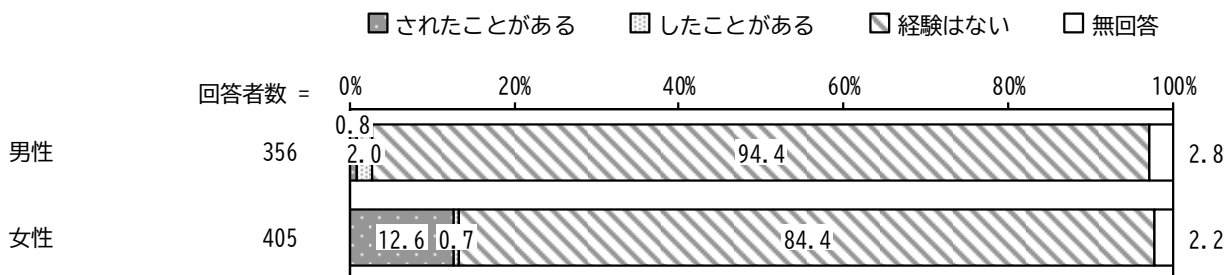
性別にみると、大きな差はみられません。



⑨ いやがっているのに性的な行為を強要する

【性別】

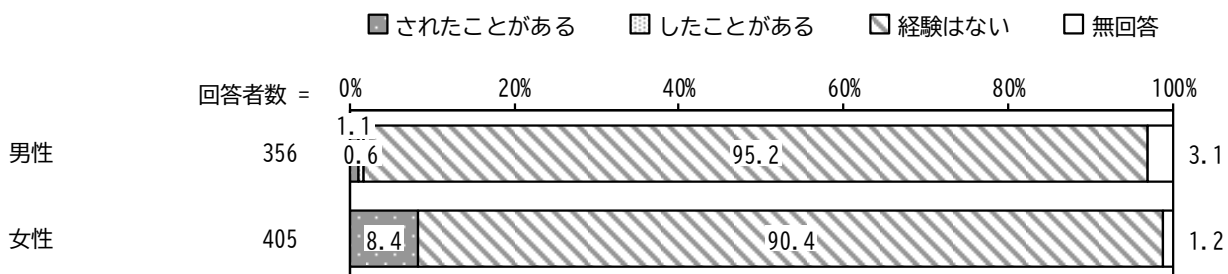
性別にみると、男性で「経験はない」の割合が高くなっています。



⑩ 生活費を渡さない

【性別】

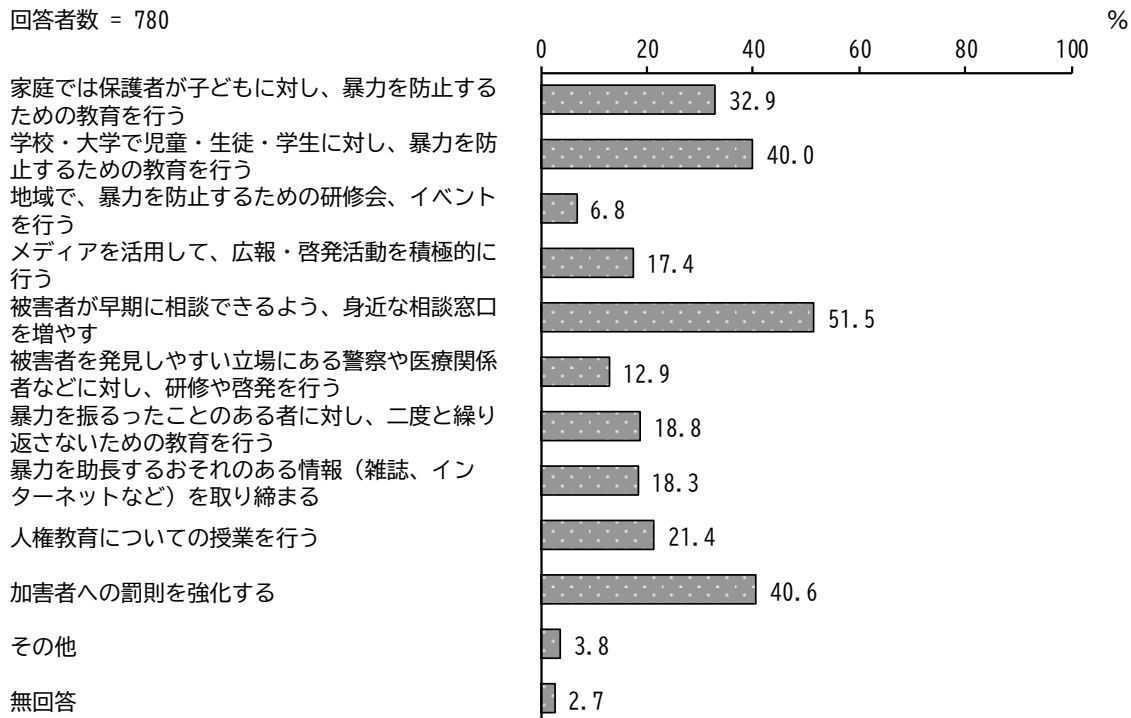
性別にみると、大きな差はみられません。



問 12. 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。(特に必要だと思うものから○を3つ)

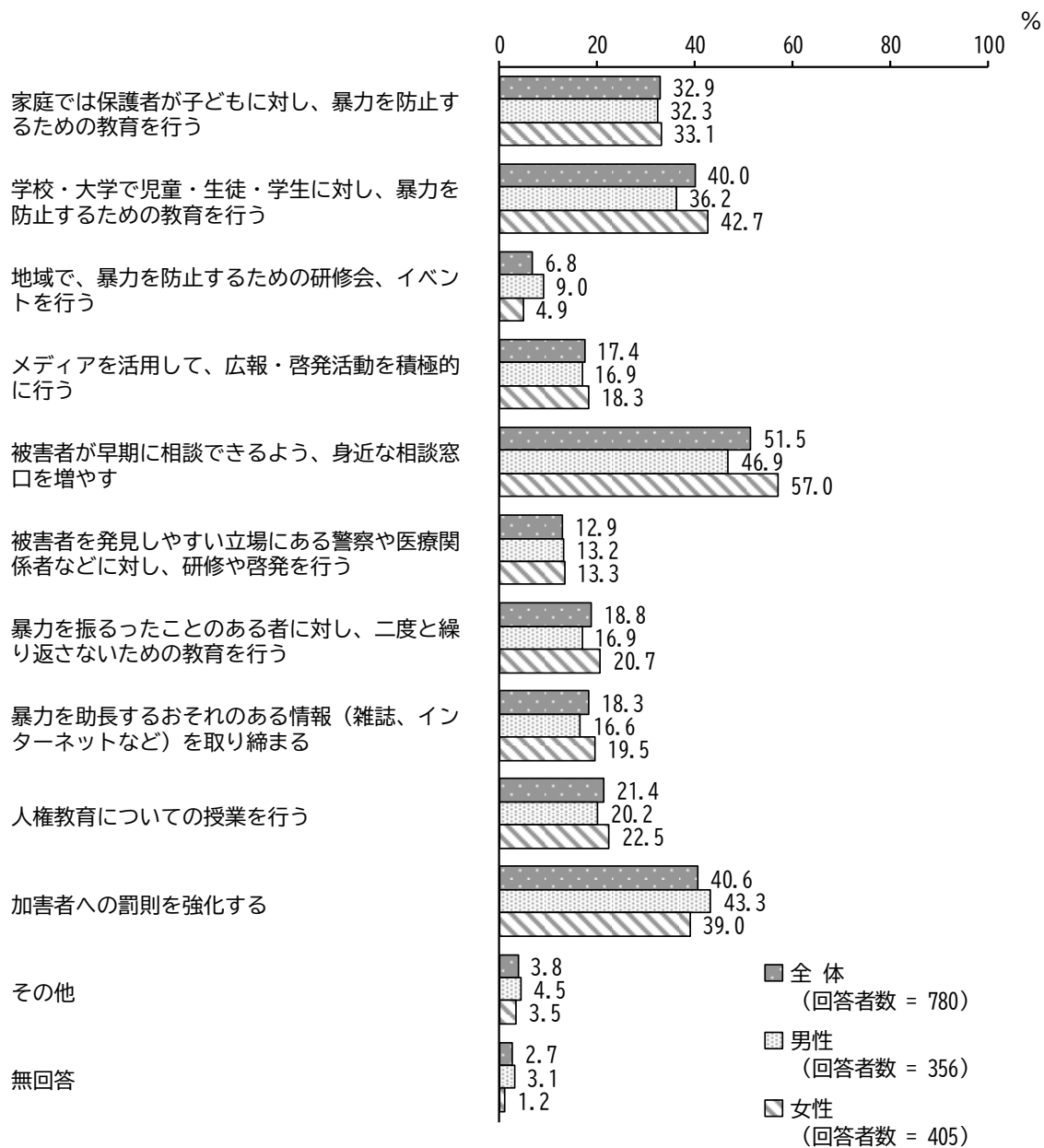
「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」の割合が 40.6%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」の割合が 40.0%となっています。

回答者数 = 780



【性別】

性別にみると、女性で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が高くなっています。

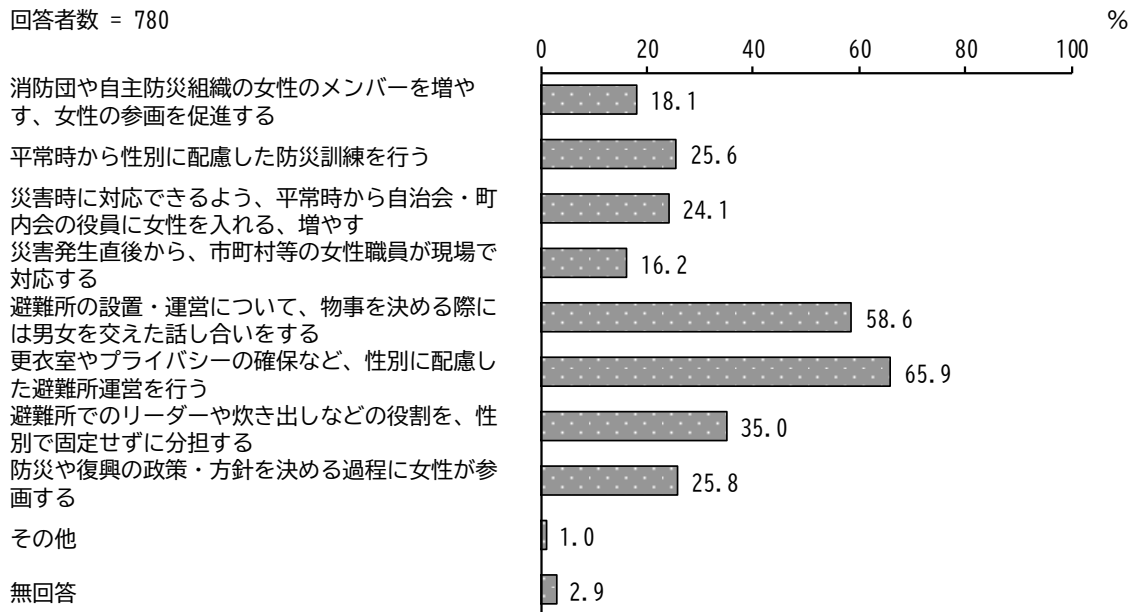


7 防災について

問 13. 性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つ)

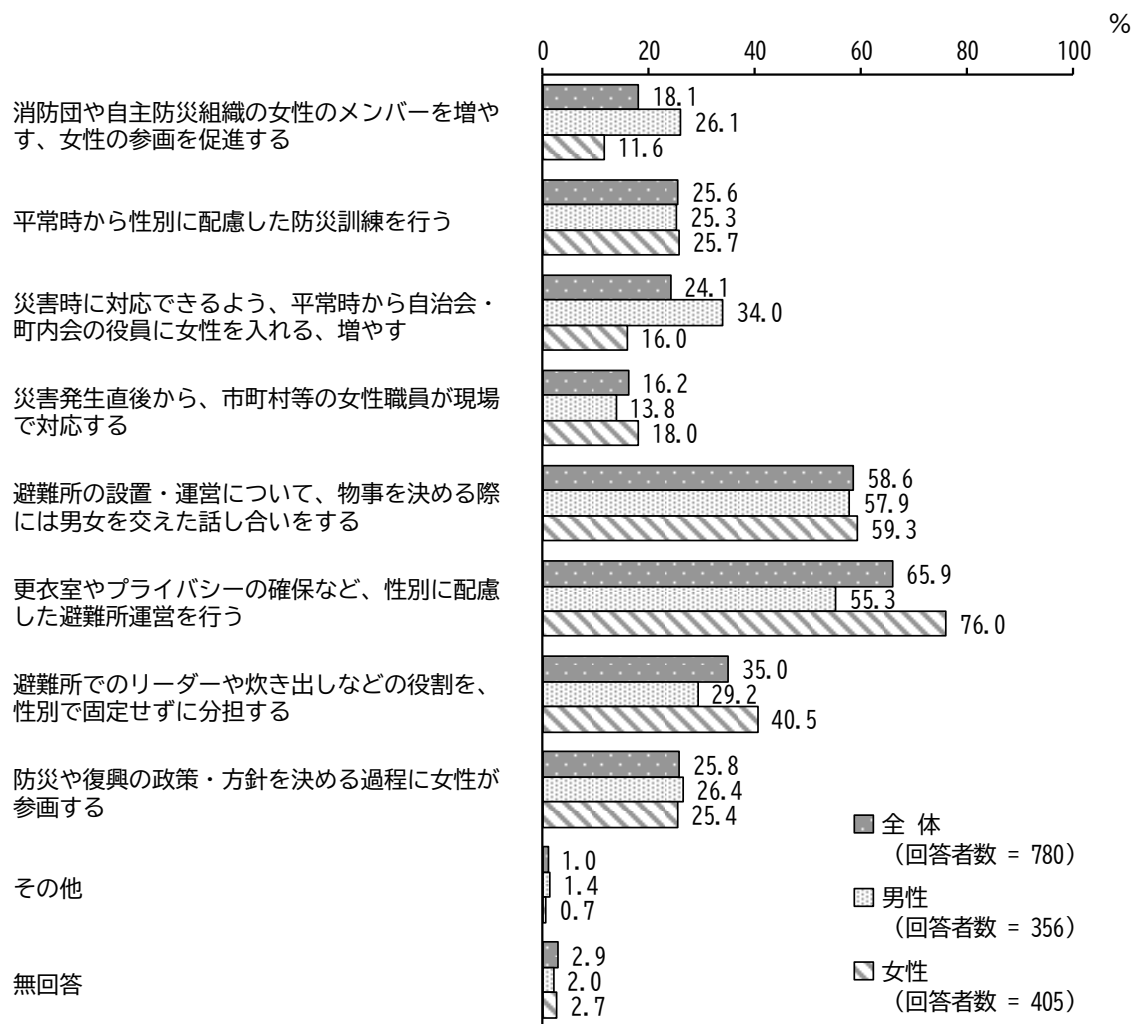
「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」の割合が 65.9%と最も高く、次いで「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」の割合が 58.6%、「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する」の割合が 35.0%となっています。

回答者数 = 780



【性別】

性別にみると、女性で「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」の割合が高くなっています。

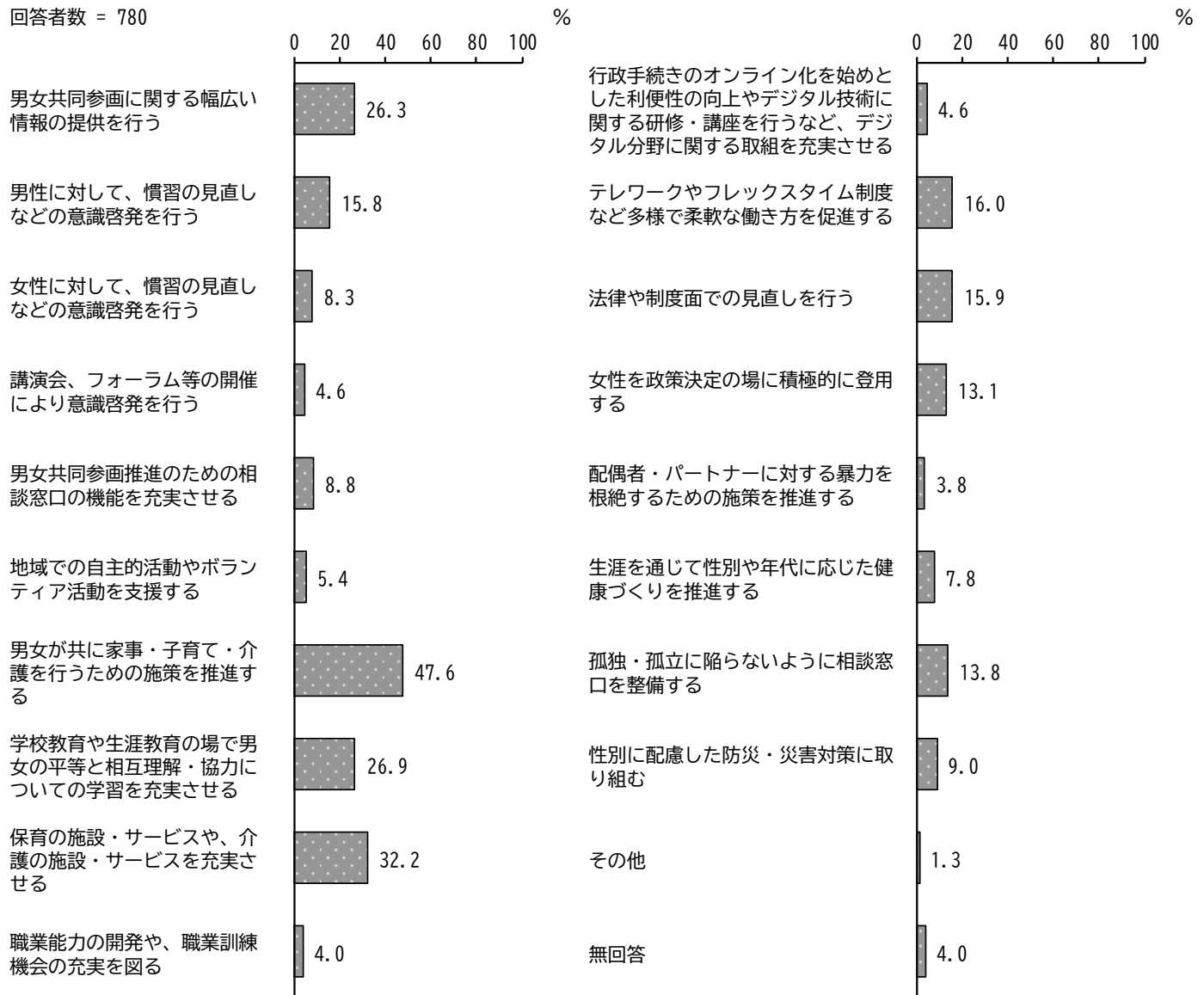


8 男女共同参画社会に関する施策について

問 14. 男女共同参画社会を実現するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(優先順位の高い項目から○を3つ)

「男女が共に家事・子育て・介護を行うための施策を推進する」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスや、介護の施設・サービスを充実させる」の割合が 32.2%、「学校教育や生涯教育の場で男女の平等と相互理解・協力についての学習を充実させる」の割合が 26.9%となっています。

回答者数 = 780



9 自由回答

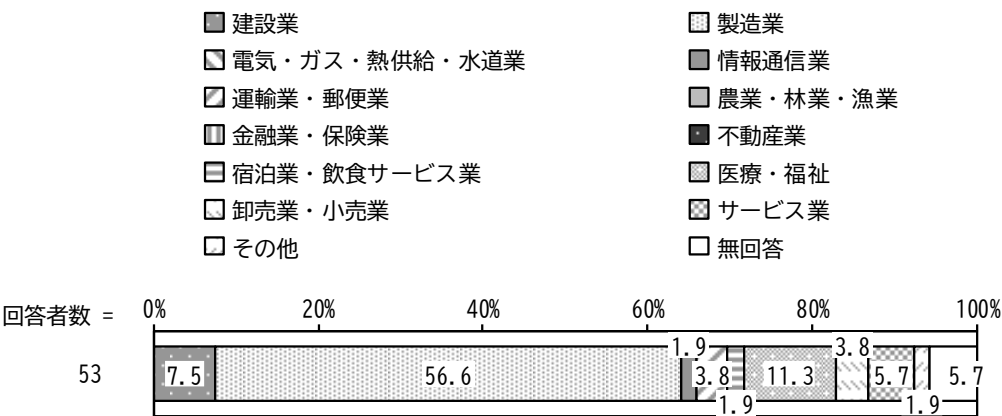
カテゴリー	件数
1 性差を認めつつ尊重する姿勢について	3
2 妊娠出産を考慮した人事について	3
3 男性も育児に積極的に参加すべきことについて	3
4 男女平等について	11
5 古い概念を捨て新しい思考をもつことについて	12
6 家庭と両立できる環境について	3
7 DV 加害者の処罰について	3
8 生物的差異を考慮した対策について	8
9 子育て支援について	3
10 賃金格差や昇格差について	5
11 女性の価値が認められにくい環境について	8
12 DV 被害者の支援施設について	3
13 若者支援と老人活用を結びつけることについて	2
14 病児保育の充実について	2
15 労働者不足で女性の活用が進むことについて	2
16 日本の歴史を学び価値観を持つことについて	3
17 男性の育休制度について	2
18 地域の年配者の意識改革が難しい	5
19 得意不得意を支え合う意識について	12
20 福祉の充実について	3
21 議員数について	6
22 人の意識を変えるについて	5
23 アンケートについて	8
24 ジェンダーの人への配慮について	2
25 他国を意識することについて	2
26 平等の定義について	6
27 その他	32

Ⅲ 調査結果（事業所）

1 貴事業所の概要

問2 貴事業所の主な業種について当てはまるものをお答えください。（○は1つ）

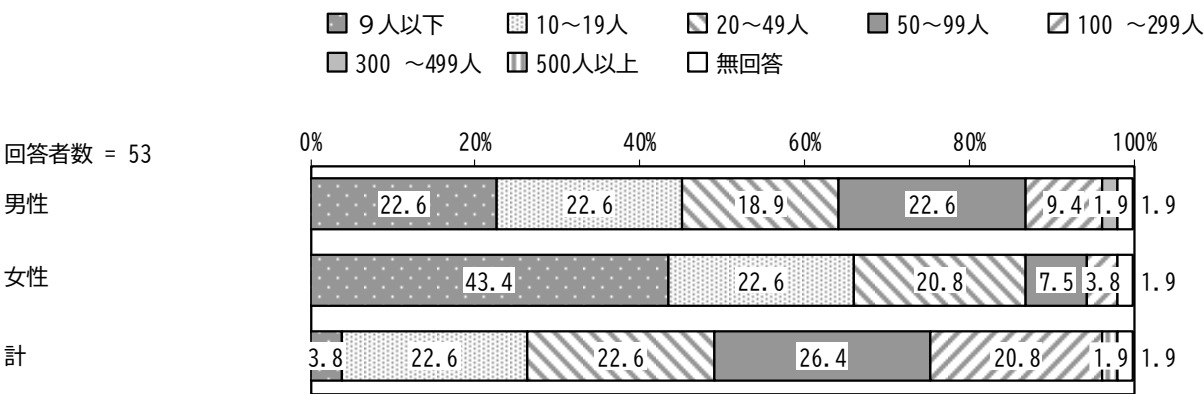
「製造業」の割合が56.6%と最も高く、次いで「医療・福祉」の割合が11.3%、「建設業」の割合が7.5%となっています。



問3 貴事業所の従業員数等の状況をお答えください。（回答日時点）

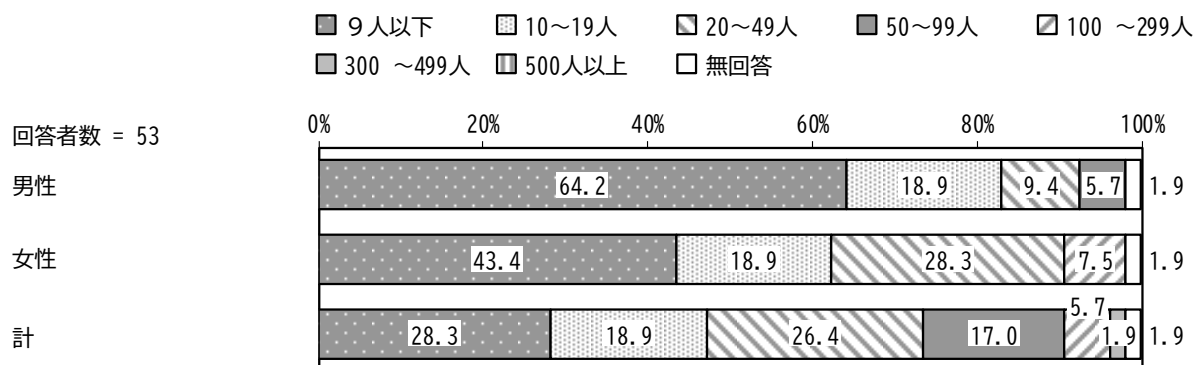
① 正規従業員

『男性』で「50～99人」「100～299人」の割合が、『女性』で「9人以下」の割合が高くなっています。



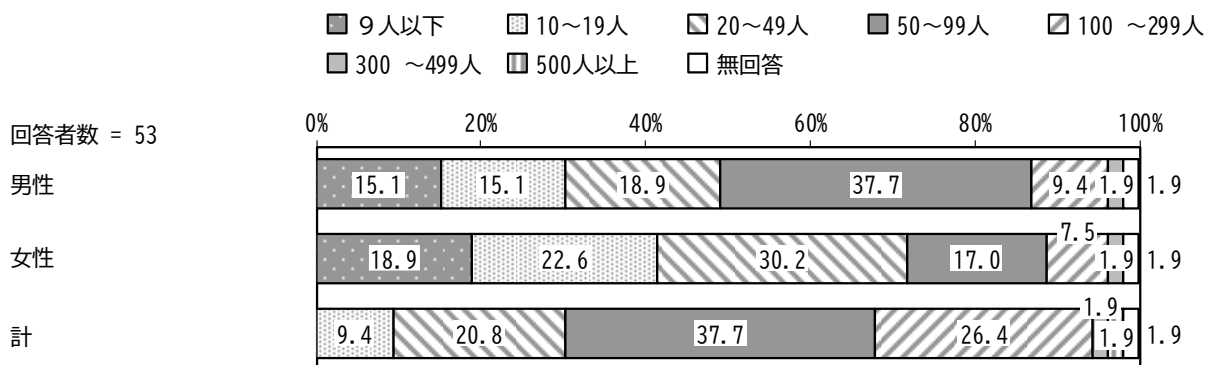
② 非正規従業員

『男性』で「9人以下」「50～99人」の割合が、『女性』で「20～49人」「100～299人」の割合が高くなっています。



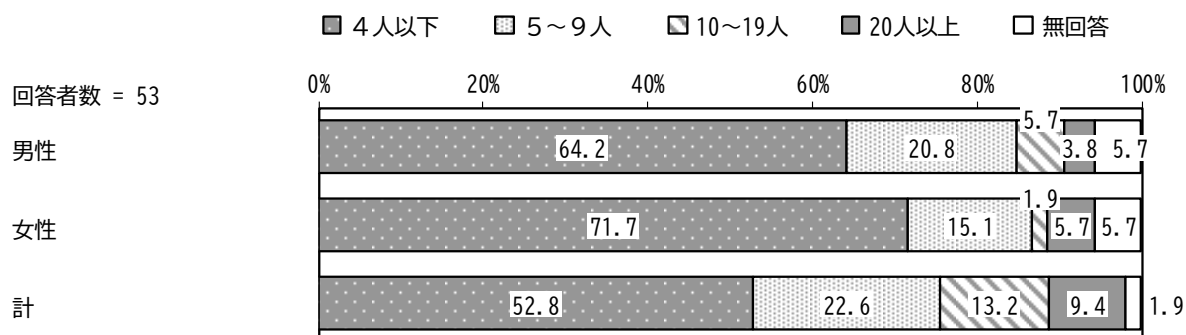
従業員合計

『男性』で「50～99人」の割合が、『女性』で「10～19人」「20～49人」の割合が高くなっています。



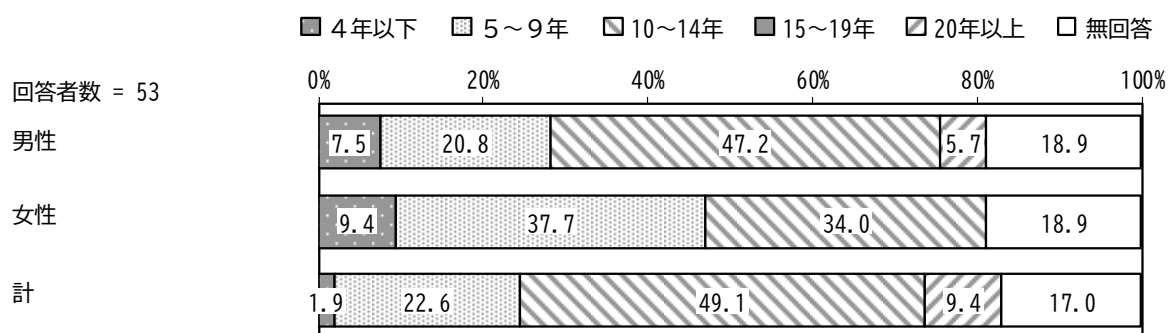
③ 令和5年度の採用者数

『男性』で「5～9人」の割合が、『女性』で「4人以下」の割合が高くなっています。



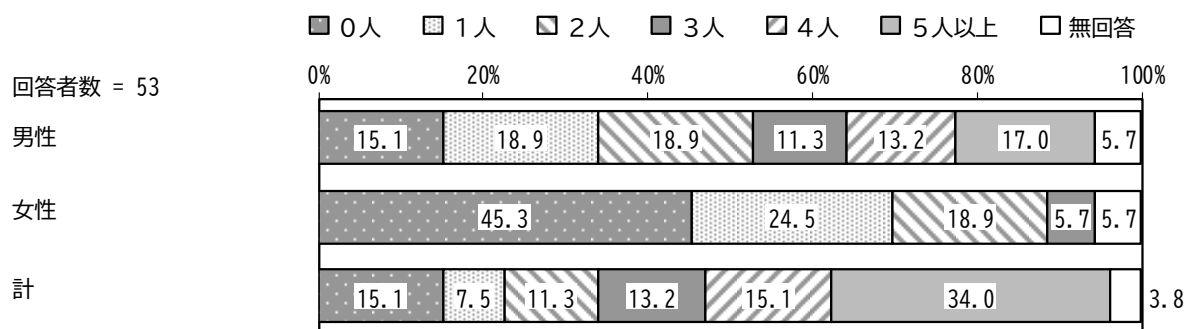
④ 平均勤続年数

『男性』で「10～14年」「20年以上」の割合が、『女性』で「5～9年」の割合が高くなっています。



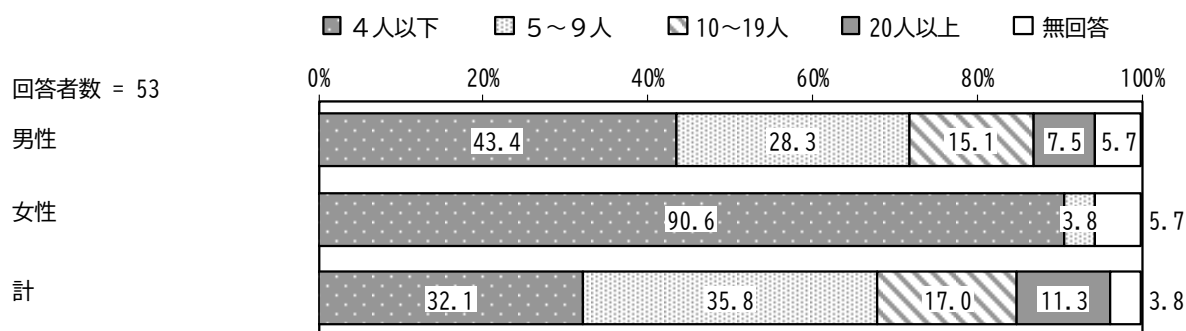
⑤ 役員数

『男性』で「3人」「4人」「5人以上」の割合が、『女性』で「0人」「1人」の割合が高くなっています。



⑥ 管理職数

『男性』で「5～9人」「10～19人」「20人以上」の割合が、『女性』で「4人以下」の割合が高くなっています。

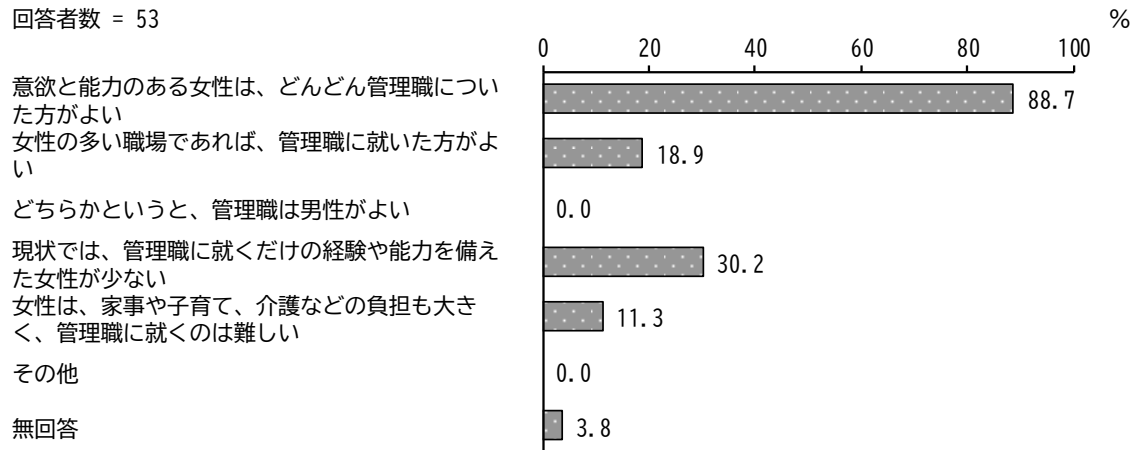


2 女性の活躍推進について

問4 貴事業所では、女性が管理職に就くことについてどのように考えていますか。(複数回答可)

「意欲と能力のある女性は、どんどん管理職についた方がよい」の割合が 88.7%と最も高く、次いで「現状では、管理職に就くだけの経験や能力を備えた女性が少ない」の割合が 30.2%、「女性の多い職場であれば、管理職に就いた方がよい」の割合が 18.9%となっています。

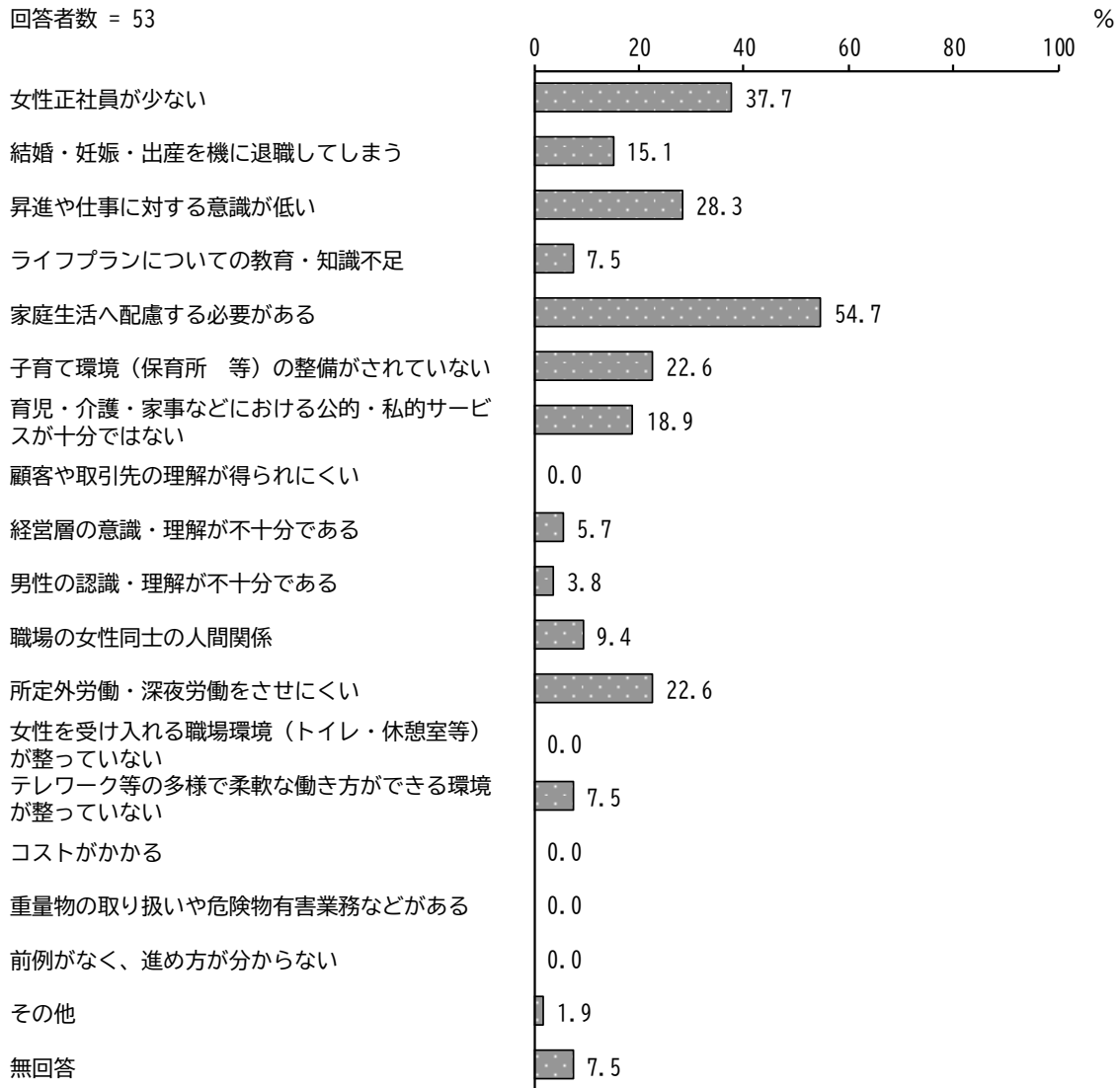
回答者数 = 53



問5 女性の継続就労や管理職への登用など、女性の活躍を推進する上で、どのような課題があると思いますか。（優先順位の高いものから○を3つ）

「家庭生活へ配慮する必要がある」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「女性正社員が少ない」の割合が 37.7%、「昇進や仕事に対する意識が低い」の割合が 28.3%となっています。

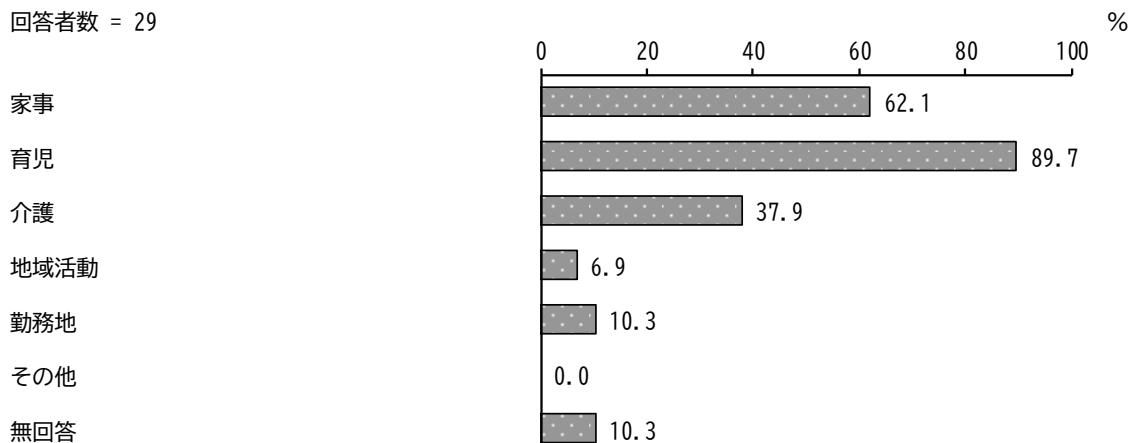
回答者数 = 53



家庭生活へ配慮する必要がある具体的ななもの

「育児」の割合が 89.7%と最も高く、次いで「家事」の割合が 62.1%、「介護」の割合が 37.9%となっています。

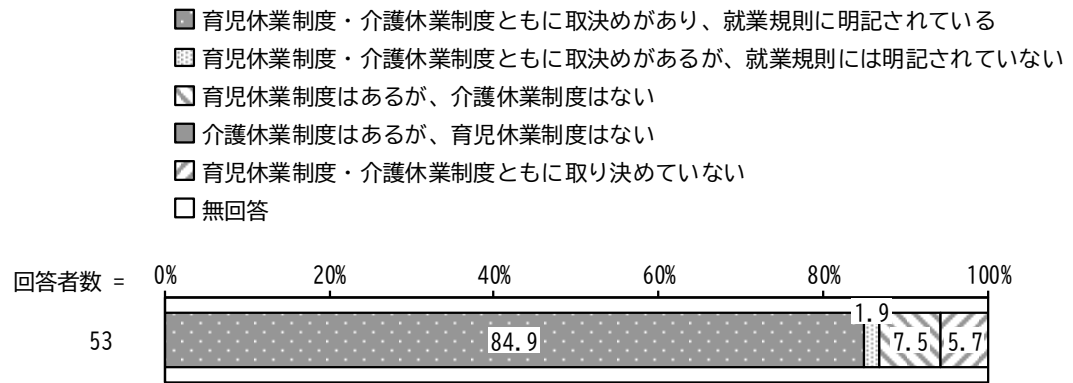
回答者数 = 29



3 貴事業所の育児や介護に関する制度について

問6 育児休業・介護休業制度について当てはまるものをお答えください。(〇は1つ)

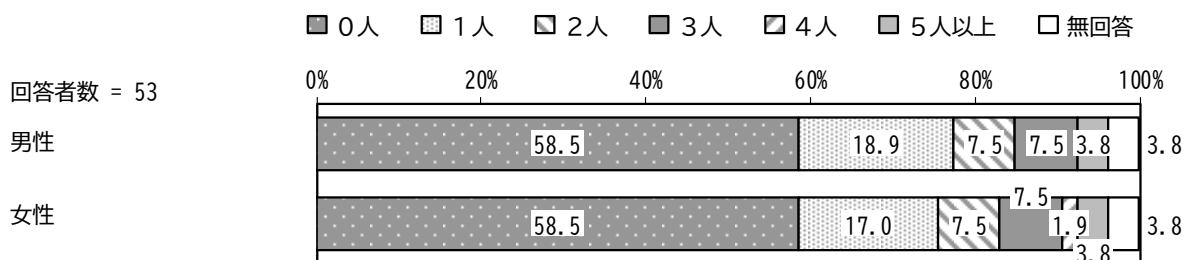
「育児休業制度・介護休業制度ともに取決めがあり、就業規則に明記されている」の割合が 84.9%と最も高く、次いで「育児休業制度はあるが、介護休業制度はない」の割合が 7.5%、「育児休業制度・介護休業制度ともに取り決めていない」の割合が 5.7%となっています。



問7 貴事業所において、令和5年度の1年間の間に育児・介護休業を取得した人数をお答えください。

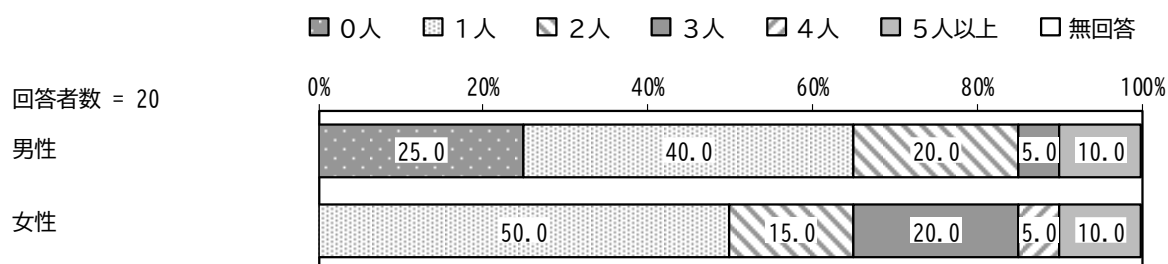
①出産者数（男性の場合は配偶者が出産した人の数）

『男性』『女性』ともに「0人」の割合が高くなっています。



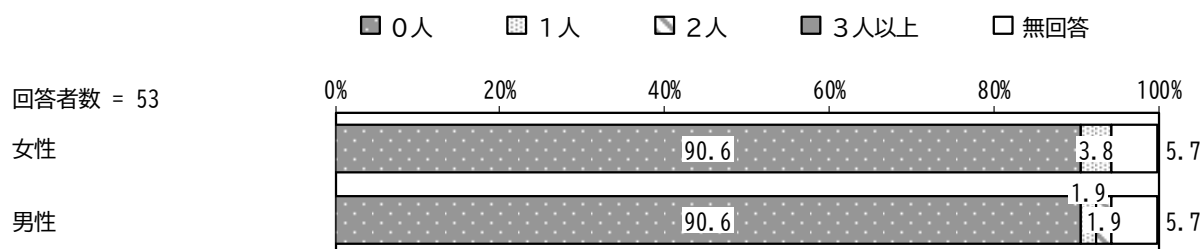
②うち、育児休業を取得した人数

『男性』で「0人」「2人」「20人以上」の割合が、『女性』で「1人」「3人」「4人」の割合が高くなっています。



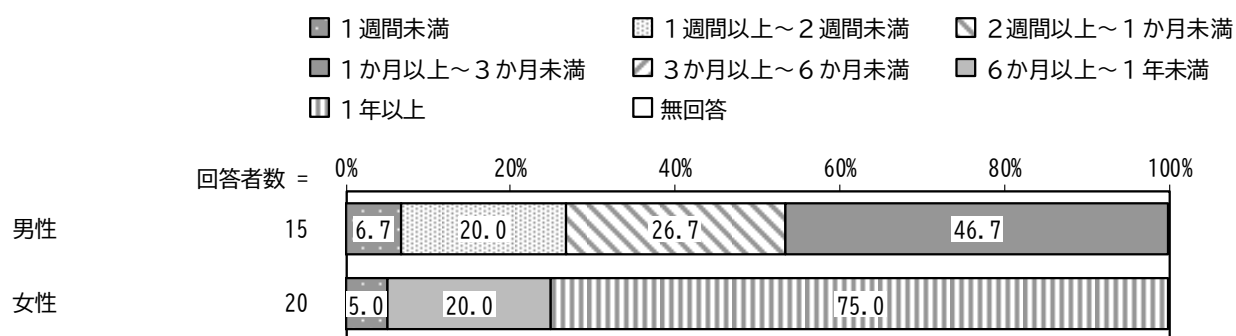
③介護休業を取得した従業員数

『男性』『女性』ともに「0人」の割合が高くなっています。



問8 問7において育児休業を取得した従業員・職員がいる事業所に伺います。男女それぞれの平均的な取得期間はどのくらいですか。(番号を1つずつ選択)

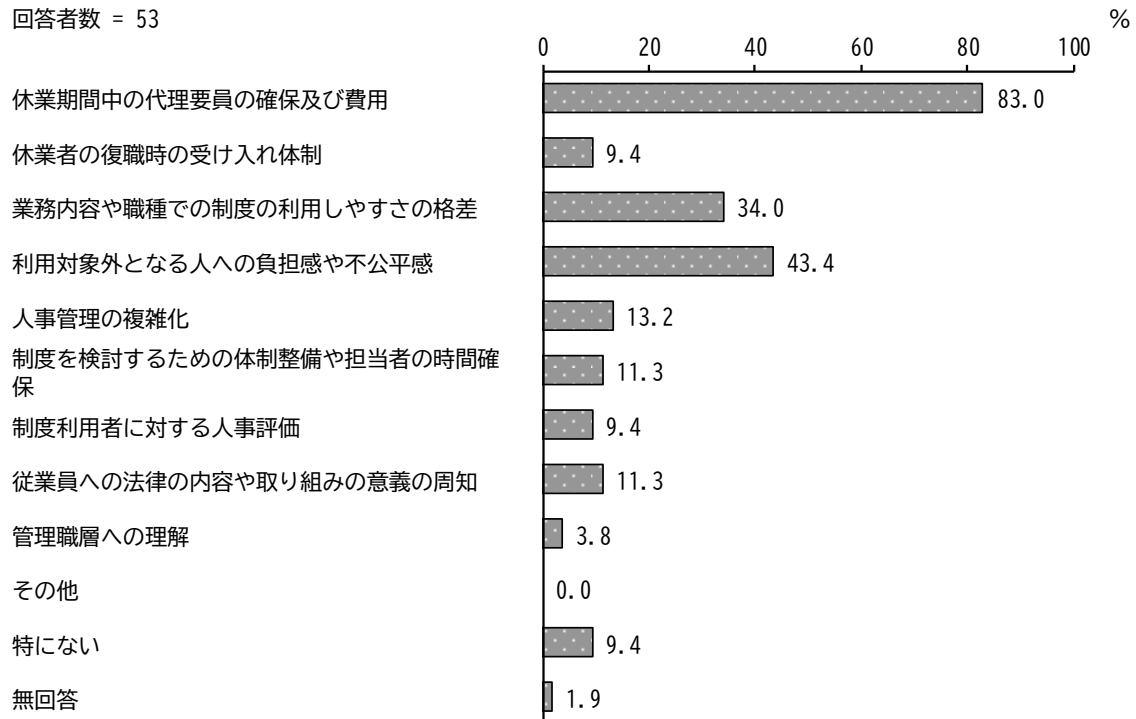
『男性』で「1週間以上～2週間未満」「2週間以上～1か月未満」「1か月以上～3か月未満」の割合が、『女性』で「6か月以上～1年未満」「1年以上」の割合が高くなっています。



問9 育児・介護休業制度を活用する上で、課題となることを教えてください。（優先順位の高いものから○を3つ）

「休業期間中の代理要員の確保及び費用」の割合が 83.0%と最も高く、次いで「利用対象外となる人への負担感や不公平感」の割合が 43.4%、「業務内容や職種での制度の利用しやすさの格差」の割合が 34.0%となっています。

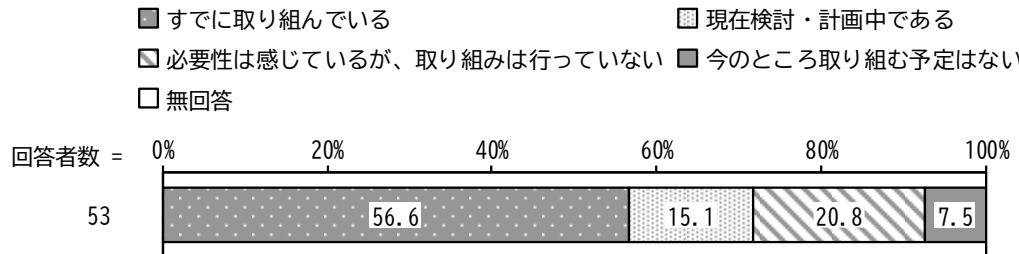
回答者数 = 53



4 「ワーク・ライフ・バランス」について

問10 貴事業所では、従業員の「ワーク・ライフ・バランス」に関する取り組みを行っていますか。

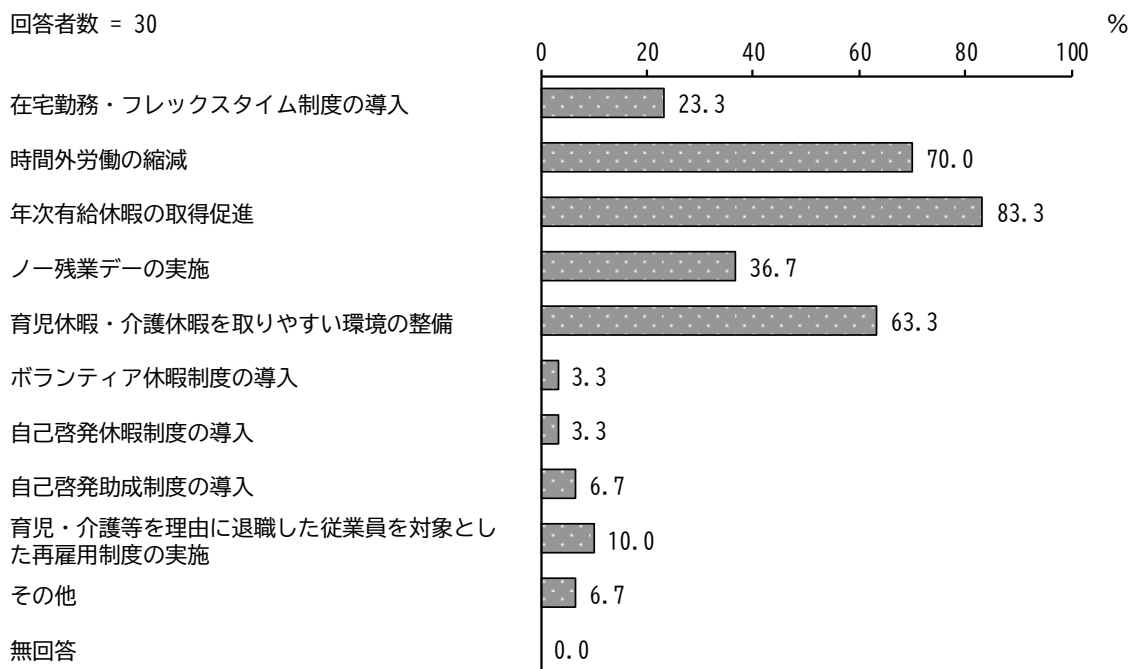
「すでに取り組んでいる」の割合が 56.6%と最も高く、次いで「必要性は感じているが、取り組みは行っていない」の割合が 20.8%、「現在検討・計画中である」の割合が 15.1%となっています。



問10で「すでに取り組んでいる」と答えた事業所にお聞きします。

問11 現在「ワーク・ライフ・バランス」に関して行っている取り組みはどのようなものですか。(当てはまるものに全て○)

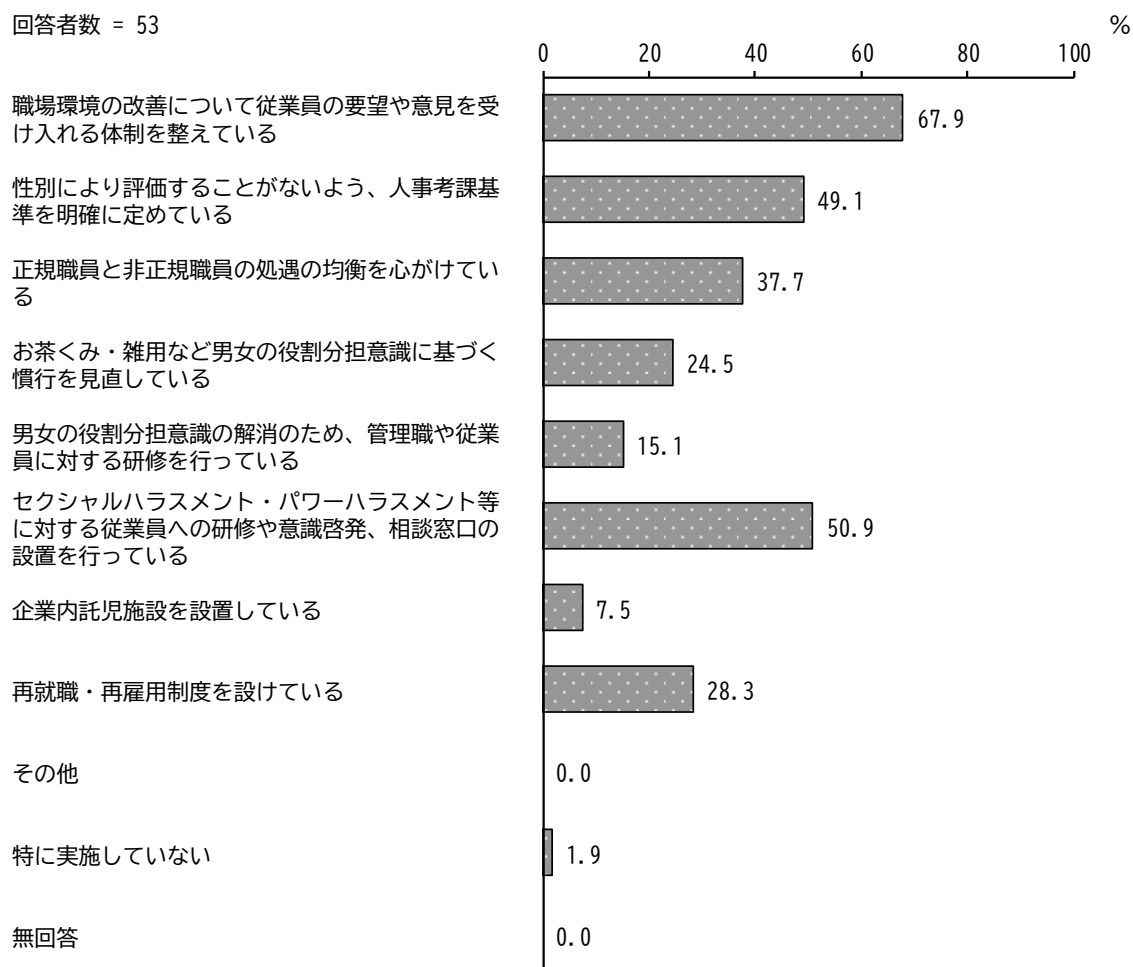
「年次有給休暇の取得促進」の割合が 83.3%と最も高く、次いで「時間外労働の縮減」の割合が 70.0%、「育児休暇・介護休暇を取りやすい環境の整備」の割合が 63.3%となっています。



問 12 男女が共に働きやすい職場環境・風土作りについて、何か取り組んでいることはありますか。(当てはまるもの全てに○)

「職場環境の改善について従業員の要望や意見を受け入れる体制を整えている」の割合が 67.9%と最も高く、次いで「セクシャルハラスメント・パワーハラスメント等に対する従業員への研修や意識啓発、相談窓口の設置を行っている」の割合が 50.9%、「性別により評価することがないよう、人事考課基準を明確に定めている」の割合が 49.1%となっています。

回答者数 = 53



5 自由回答

意見
・ 耕作放棄地を「豊かな自然あふれる環境」として再評価し、育児中の女性職員や地域のママたちが交流し、子育ての悩みを解消する場「サトワラ」を展開。
・ 託児所を社内に整備し、子育て女性の仕事と育児の両立を支援。
・ ジョブローテーションを実施し、子供の都合で休みが多くなる社員の穴を埋める工夫。
・ 企業主導型保育園を運営。
・ 男性育休の手引きを作成。
・ トイレ掃除は男女共に従業員全員当番制で実施。
・ 安全衛生委員会に女性が参画。
・ 女性管理者はまだいないが、リーダーとして活躍する女性が増加。管理者としての職能要件を満たせば、男女問わず管理者になれる仕組みが構築されている。
・ 時間単位で有給を取得可能。
・ 介護休暇、子の看護休暇の取得について（令和5年度：介護休暇16名取得、子の看護休暇11名取得。令和6年度（11月末現在）：介護休暇17名取得、子の看護休暇10名取得。）
・ 高校生以下の子供の学校行事の参加時間は就業時間とみなす（参観日等）。

恵那市男女共同参画に関する市民意識調査
令和7年1月

発行：恵那市役所
まちづくり企画部まちづくり企画部企画課